



## 大阪市立大学大学院理学研究科・理学部

### 地球学教室ニュースレター No. 15

2006年度地球学教室

教室主任 塩野清治

2006年度の地球学教室の教員は14名でした。年度末には相川信之教授（現本学名誉教授）が定年退職され、また、根本泰雄講師が桜美林大学に転出されました。2006年度の生物地球系専攻地球学分野の前期博士課程院生数は24名（M1; 9名, M2; 15名）、後期博士課程院生数は29名（D1; 5名, D2; 10名, D3; 14名）、研究生5名でした。2006年度の地球学科卒業生は13名、生物地球系専攻地球学分野の前期博士課程修了者12名、後期博士課程修了者3名、課程博士学位授与者2名でした。昨年度は1年次入学生を対象としたJABEE認定教育プログラム「地球システムコース」の中間審査を受審し、2004年度の審査で指摘を受けた部分が改善されたとして、2009年度までの認定の継続が認められました。2004年度以降の地球システムコースの修了者は合計40名に達しています。研究においては、教室構成員の論文・学会発表などの記事に見られるように、200以上の研究成果が公表されていて、活発な研究活動が進められています。そのなかで熊井久雄先生（現本学名誉教授・客員教授）の退職記念出版「人類紀自然学—地層に記録された人間と環境の歴史—」（共立出版）の刊行が特筆されます。また、教員の兼職の記事に見られるように、専門を生かした多面的な社会貢献活動や、学外活動・高大連携等の記事に見られるように、小学校・中学校・高等学校あるいは一般向けの普及活動も活発に行っていました。

大学祭の期間の11月3日に地球学教室のHome Coming Dayを初めて開催しました。事前の案内が十分でなかったため参加者は多くなかったのですが、卒業生や旧教員を含む教室関係者の意見交換の場として楽しい会合を持つことができました。今後とも継続していきたいと思えます。

2006年4月1日に大阪市立大学は公立大学法人が設置する大学として新しく出発することとなりました。本学は1880年の大阪商業講習所の開所を起源とし、1928年に設立された大阪商科大学を直接の前身とする我が国最初の市立の大学です。1949年に新制大学制度のもとで、商学部・経済学部・法学部（後に法学部と文学部に分離）・理工学部（後に理学部と工学部に分離）・家政学部（後に生活科学部）の5学部（後に医学部を含めて8学部）をもった大阪市立大学へと発展しました。理工学部の新設が構想された当初、当局には地学分野を新学部を含めるという志向性はありませんでしたが、「地学こそ大阪という地域性を生かし、理学的基礎の上にたった工学的技術者を育成するという理念を発揮できる分野である」との強い主張が受け入れられて、1950年に地学教室が創設されました。1959年には理工学部は理学部と工学部に分離し、「原理を基本から会得して、新しい応用問題にも取り組める人材の育成」という理念のもとに数学科、物理学科、化学科、生物学科、地学科からなる理学部がスタートしました。その後、地学科は1993年に、地域に密着し、かつグローバルな視点から地球自然と人間社会との接点に立った総合科学的な教育・研究を行う「地球学科」へと改組しました。1998年度には大学院理学研究科が大規模に再編成され、従来の地質学専攻と生物学専攻が合体して生物地球系専攻となりました。この大学院再編成に伴って小講座制から大講座制に変わり、地球学科は地球物質進化学講座と環境地球学講座の2講座体制になり現在に至っています。現在、法人化に伴い教員の削減が求められるという厳しい現実に直面しています。理学研究科のみならず全学的に教育研究体制の見直しが進められています。地球学教室ではここ数年の間に定年退職者が続出しますが、都市型総合大学である大阪市立大学の一セクションとして、社会の要求にこたえられるような鮮明な目標を打ち出し、基礎と応用の両面で地球学をさらに発展させる教育研究体制を確立していきたいと考えています。

**Newsletter No. 15 (2007), Department of Geosciences  
Graduate School of Science, Osaka City University**

< 目 次 >

1. 地球学教室の構成及び研究内容	p. 1	3. 地球学教室の研究活動	p. 4
2. 地球学教室の教育活動	p. 2	4. 地球学教室関係行事・出版物等	p. 14

## 1. 地球学教室の構成および研究内容

### 1-1. 教室の構成

地球学教室は「地球物質進化学講座」と「環境地球学講座」から構成されています。地球物質進化学講座は「地球物質学 I 分野」、「地球物質学 II 分野」、「地球史学分野」から、環境地球学講座は、「人類紀自然学分野」、「都市地盤構造学分野」、「地球情報学分野」からなります。地球学教室の教員定数は 16 名で、現在数は 12 名です。大学院理学研究科生物地球系専攻の院生のうち、地球学教室所属の前期博士課程の定数は 24 名 (M1: 12 名, M2: 12 名) で、現在数 15 名 (M1: 8 名, M2: 7 名)、後期博士課程の定数は 18 名 (D1: 6 名, D2: 6 名, D3: 6 名) で、現在数 25 名 (D1: 5 名, D2: 4 名, D3: 16 名) です。

### 1-2. 構成員の研究内容

本年度の各研究分野の構成員および研究課題

#### [ 地球物質進化学講座 ]

##### 地球物質学 I 分野 (Mineralogy, Petrology & Geochemistry I)

地球科学現象の物理・化学過程の解明を目的として、地球物質の結晶構造・化学組成・マイクロ～マクロな組織の変化と規則性を原子・鉱物レベルで研究する。

益田晴恵 [教授] 地殻表層付近の水循環とそれに伴う物質の挙動

篠田圭司 [准教授] 鉱物の高温高压下での振動分光学的研究

伊藤美穂 [D3] 海底熱水条件下での必須アミノ酸の熱的安定性

野口直樹 [D2] コーサイト - 石英相転移のカイネティックス

Seddiqui Ashraf Ali [D2] バングラデシュ・シヨナルガオ地域のヒ素汚染地下水の形成過程

##### 地球物質学 II 分野 (Mineralogy, Petrology & Geochemistry II)

同位体から超大陸やマントルまで、現在から地球誕生の 46 億年前までの広い時間・空間を研究対象として、地球物質の構成や変化とそれらの規則性を岩体・岩石レベルで研究する。

古山勝彦 [准教授] 新生代の火山地質及び岩石学

奥平敬元 [准教授] 変成・変形作用の素過程と下部地殻進化

西脇 仁 [D3] 領家変成帯における塩基性岩の定置機構

別府裕樹 [D3] 領家変成帯の歪解析と層面片理形成機構

中尾武司 [D3] 鹿児島県トカラ列島口之島の火山地質・岩石学的研究

佐々木陵多 [M2] 三重県名張地域の領家変成岩類におけるミグマタイト化作用

##### 地球史学分野 (Earth History)

地球表層部の地層や化石に残されている記録を手掛かりにして、地球の歴史をひもとくとき、地球の誕生から現在・未来への地球環境の変遷史を解明する。

八尾 昭 [教授] 中・古生代地球史、放散虫類の古生物科学

前島 渉 [教授] 砕屑物質の堆積作用：堆積盆解析

江崎洋一 [准教授] 地球・生物環境変遷史:化石刺胞動物の系統発生

桑原希世子 [研究生] ペルム紀放散虫の古生物学

嶋川未来子 [D3] ペルム紀古世・中世放散虫

Leila Alipour [D3] イランのペルム紀サンゴの古生物科学

菅森義晃 [D2] 中・古生代における東アジア東縁部の形成過程の解明と海洋環境の復元

徳田悠希 [D1] 単体六射サンゴの機能形態及び進化史の解明

都築 宏 [M2] 志摩半島東部の秩父帯の地質学的研究

室田真宏 [M2] 和泉層群北縁相の堆積システムの復元

猪岡 聖 [M1] エジプト、ファイユーム地域カルン湖周縁の完新世堆積作用

#### [ 環境地球学講座 ]

##### 人類紀自然学分野 (Natural History Of Anthropogene)

地球上に人類が誕生して以降、現在までの最新の地質時代である人類紀 (第四紀) に焦点をあて、その自然環境の変遷史、人間の活動と自然環境の相互作用、都市地盤の地質現象、短尺度の年代決定法の研究を行なう。

吉川周作 [教授] 第四紀地質学・環境地質学

三田村宗樹 [准教授] 第四紀地質学・都市地質学

井上淳 [研究生] 堆積物中の微粒炭分析による完新世・後期更新世の植物燃焼史の解明

石井陽子 [D3] 大阪堆積盆における中部更新統の火山灰層序

松江実千代 [D3] 完新世の大阪平野周辺における植生変遷とそれに及ぼした人間活動の影響

廣瀬孝太郎 [D3] 汽水・海水域における珪藻化石群集と地質イベント

福田さよ子 [D3] 考古遺物における木材・炭化材の研究

村上晶子 [D3] 堆積物中の人為起源球状粒子からみた化石燃料燃焼の歴史トレンド解析

辻本 彰 [D3] 人為及び自然環境変化が底生有孔虫に与えた影響の解明

張 穎奇 [D3] Late Cenozoic Biostratigraphy of China Based on Fossil Arricolids

檜山知代 [D2] 地層単元調査に基づく地質汚染機構の解析

北川陽一郎 [D1] 沖積層の花化石・微粒炭の研究

塚田 豊 [M2] 大阪平野沖積粘土層の形成過程と物理特性

吉田広人 [M2] 珪藻分析による水域環境変遷の解析

北村真一 [M1] 大阪平野沖積層の有孔虫分析

森野祐助 [M1] 大阪平野の浅層地下水解析

##### 都市地盤構造学分野 (Urban Geosciences)

都市の地盤環境や地震・津波・地すべりなどの自然災害に関する研究を行なう。

原口 強 [准教授] 地質工学：地質災害と人工改変

Mamoun Khaled [D3] 地質の動力学、物理探査

Thabet Mostafa [D3] 地震学：非線形の影響を考慮した地震動の推定

吉永佑一 [D1] 火山性断層、活断層に関する研究

福田徹也 [D1] 地質ハザードに関する研究

栗栖悠貴 [M2] 地震に伴う山体移動の研究

鳥居和樹 [M2] 津波堆積物を用いた古地震研究

##### 地球情報学分野 (Geoinformatics)

情報科学的観点から地球に関する情報や知識を有機的に統合することにより、諸現象の関係性や法則性、地球情報の論理構造、地球環境の予測などを研究する。特に、野外調査データから地質構造を決定する作業に関連する基礎理論やコンピュータ処理法の開発、あるいは GIS を用いた危険度予測 (Hazard mapping) などが当面の研究課題である。

塩野清治 [教授] 地質学的方法の情報科学的体系  
 升本眞二 [教授] 地球情報の定式化・表現方法  
 野々垣進 [D3] スプライン関数を用いた地層面推定アルゴリズムの開発

Tran Ngoc Minh [D1] Applying GIS and Remote Sensing on Meteorological, Hydrological modelling  
 遠藤 誠 [M2] デジタル写真測量による 3 次元モデリング

乾 義幸 [M1] GIS による地質情報の解析  
 岩村里美 [M1] 論理地質学による 3 次元地質モデリング  
 奥本かおり [M1] 音波探査による 3 次元地形解析  
 藤村千秋 [M1] GIS による地すべり地形解析

### 1-3. 2007 年度学生・院生構成数

2007 年度の地球学科学生在籍数 (3・4 年は編入学生数を含む) および理学研究科生物地球系専攻のうち地球学教室所属の院生数 (社会人・外国人留学生数を含む) は、以下の通りです。

表1. 所属学生数 (カッコ内は女子学生数)

学 部	1年	2年	3年	4年	合計	
		18 (7)	24 (5)	20 (6)	26 (11)	88 (29)
大学院	M1	M2	D1	D2	D3	合計
	7 (3)	8 (0)	5 (0)	4 (1)	16 (7)	40 (11)

## 2. 地球学教室の教育活動

### 2-1. 学部・大学院教育

[ 学部 ]

本年度の地球学科入学生は 18 名 (推薦入学 3 名を含む) です。また、一般編入学試験合格者 4 名と社会人編入学試験合格者 1 名が 3 回生に編入されました。地球学科では多様な学生募集 (入学試験) を行なっています。平成 20 年度の募集は以下のとおりです。なお、募集の詳細については追って理学部のホームページ (<http://www.sci.osaka-cu.ac.jp>) 等で案内します。

一般編入学 : 募集人員 5 名 (含社会人)  
 社会人編入学 : 募集人員若干名  
 推薦入学 : 募集人員 3 名  
 一般選抜 (前期日程) : 募集人員 10 名  
 一般選抜 (後期日程) : 募集人員 3 名

[ 大学院 ]

前期博士課程の試験が 9 月 5・6 日に、後期博士課程の試験が 2 月上旬に行なわれます。前期博士課程では研究能力の秀でた学生を入学させ、優れた研究者・技術者を育成する目的で、推薦入学特別選抜を 7 月に実施しています。後期博士課程では研究意欲旺盛な社会人が在職しながら正規の大学院生として在学できる社会人特別選

抜制度を実施しています。今年度も若干名を募集しますので、関係の研究室にお問い合わせ下さい。

### 2-2. 2007 年度カリキュラム・集中講義等

地球学科教員が担当する科目を、全学共通科目 (表 2)、地球学科提供の専門科目 (表 3) および大学院生物地球系専攻の科目 (表 4) ごとに示します (\* は地球学科必修科目)。また、学部および大学院の集中講義はそれぞれ表 5、表 6 のとおりです。

表2. 全学共通科目 (担当のカッコ内は非常勤講師)

科 目 名	担 当 者	単位数
大阪の自然 (1部)	三田村・(塚腰)	2
大阪の自然 (2部)	吉川・(塚腰)	2
地球の科学 (1部)	八尾	2
地球の科学 (2部)	益田・(領木)	2
地球学入門	前島	2
一般地球学A-I*	升本	2
一般地球学A-II*	篠田	2
一般地球学B-I	江崎	2
一般地球学B-II	古山	2
建設地学	塩野・他	2
建設地学実習	篠田・他	1
地球学実験A*	奥平・他	2
地球学実験B*	原口・他	2
実験で知る自然の世界	益田・原口	3
実験で知る自然環境と人間	古山・原口	3

表3. 学部専門教育科目

年次	科 目 名	担 当 者	単位数
1年	地球学概論 I*	益田	2
	地球学概論 II*	吉川	2
	地形・地質投影法*	前島	2
	地質調査法 I・同実習*	古山・全教員	3
	地球学野外実習 I*	前島・全教員	1
2年	地球物質学 I*	篠田	2
	地球物質学 I 実習*	篠田	1
	岩石学 I*	奥平	2
	岩石学 I 実習*	奥平	1
	岩石学 II	古山	2
	岩石学 II 実習	古山	1
	古生物科学*	八尾・江崎	2
	古生物科学実習	八尾・江崎	2
	物理探査学概論	三田村・他	2
	地球情報基礎論*	塩野	2
	地球情報基礎論実習*	塩野	1
	地球ダイナミクス*	升本	2
	地質調査法 II*	古山・他	2
	測量及び地質調査法 II 実習*	古山・他	2
地球学野外実習 II	前島・全教員	1	
3年	地球学演習 I*・II*	主任・全教員	2
	地球物質学 II	篠田	2
	地球物質学 II 実習	篠田	1
	地球物質反応学	益田	2
	地球物質反応学実習	益田	1
	テクトニクス	八尾・奥平	2
	堆積学	前島	2

3年	地球史学Ⅰ	江崎・八尾	2
	地球史学Ⅱ	三田村	2
	積成地質学Ⅰ*	吉川	2
	積成地質学Ⅰ実習*	三田村	1
	積成地質学Ⅱ	吉川	2
	積成地質学Ⅱ実習	前島	1
	地質力学Ⅰ*	原口・三田村	2
	地質力学Ⅰ実習*	原口・升本	1
	地質力学Ⅱ	原口・三田村	2
	地質力学Ⅱ実習	原口・升本	1
	物理探査学概論実習	三田村・他	1
	地球ダイナミクス実習	升本	1
	地球環境情報学	升本	2
	地球環境情報学実習	升本	1
	測量及び測地学*	塩野	2
	地質調査法Ⅲ	古山・他	2
	測量及び地質調査法Ⅲ実習	古山・他	2
	地質調査法Ⅳ	古山・他	2
測量及び地質調査法Ⅳ実習	古山・他	2	
地球学野外実習Ⅲ	前島・全教員	1	
4年	地球学演習Ⅲ*	主任・全教員	2
	地球物質化学	益田・篠田	2
	地球物質化学実習	益田・篠田	2
	変成地質学	奥平	2
	人類紀自然学	吉川・三田村	2
	地球情報システム論	塩野	2
特別研究*	全教員	10	
*印は必修科目			

表4. 大学院課目(生物地球系専攻地球学分野)

課程	分野	科目名	担当者	単位数
前期博士	地球物質 進化学分野	地球物質学特論Ⅰ	篠田	2
		地球物質学特論Ⅱ	益田	2
		岩石学特論Ⅰ	奥平	2
		岩石学特論Ⅱ	古山	2
		地球進化学特論	八尾	2
		堆積論	前島	2
	地球物質進化学演習	各教員	8	
	環境地球学 分野	人類紀自然学特論Ⅰ	吉川・三田村	2
		人類紀自然学特論Ⅱ	吉川	2
		都市地盤環境論	三田村	2
		地質工学	原口	2
		地球情報学特論	塩野	2
空間情報基礎論		ラガワン	2	
学際分野特 別研究	空間情報システム論	ラガワン	2	
	環境地球学演習	各教員	8	
	地球情報学	升本	2	
後期博士	地球物質進化学ゼミナール 環境地球学ゼミナール 後期特別研究	地球進化学	江崎	2
		前期特別研究	各教員	12
		地球物質進化学ゼミナール	各教員	2
後期博士	地球物質進化学ゼミナール 環境地球学ゼミナール 後期特別研究	環境地球学ゼミナール	各教員	2
		後期特別研究	各教員	8
		後期特別研究	各教員	8

表5. 学部集中講義

科目名	担当者	単位数
地球科学技術者特論(必修)	石川浩次(中央開発棟)	2

表6. 大学院集中講義

科目名	担当者	単位数
環境地球学特別講義Ⅰ	今村文彦(東北大・院工)	1
地球物質進化学特別講義Ⅰ	掛川 武(東北大・院理)	1
生物環境変動学特別講義Ⅰ	大路樹生(東京大・院理)	1

### 2-3. 2006年度卒業論文・修士論文・博士論文

#### [ 卒業論文 ]

大和昌史：パキスタン、パンジャブ地方のラホール郊外における帯水層を構成する堆積物中のヒ素  
 石塚隼也：立山火山，称名滝火砕流堆積物にみられるマグマ混合  
 奥田哲也：美濃帯犬山地域の三疊紀中世層状チャート層における放散虫化石群集の変化  
 松崎榮彦：和歌山県九度山地域の三波川帯と四万十帯の地質関係  
 高田瑠美子：美濃帯犬山地域におけるジュラ紀中世，Bajocian の放散虫類の形態変化と個体数変化  
 小西真理絵：ジャワサンゴ（非造礁性単体六射サンゴ）骨格の構成・形成・成長様式の解明  
 熊見美和子：非造礁性単体サンゴのポリプの生体変動とその周期性－成長線の古生物学的意義の解明を目指して－  
 森野祐助：三重県伊賀市東部における古琵琶湖層群上野累層の再検討  
 北村真一：新淀川・夢洲沖ボーリングコアの完新世有孔虫群集と堆積環境の変化  
 西川泰平：水月湖の堆積物に残された三方断層帯の活動  
 由井裕一：田辺湾の津波堆積物に関する研究  
 呉屋健一：東北地方三陸海岸市基石浜の津波堆積物  
 岩村里美：離散数学にもとづく地質図作成アルゴリズムの改良－野外調査データの活用法－

#### [ 修士論文 ]

久野光輝：南部マリアナトラフから得られた火山岩の化学組成と同位体組成  
 福田惇一：偏光赤外分光法による緑柱石チャネル中における水分子の拡散と陽イオンへの配位状態  
 徳田悠希：本邦産 *Flabellum* 属・*Truncatoflabellum* 属（非造礁性単体六射サンゴ）の分類学的再検討と軟底質における適応放散  
 白村宣保：DEM の陰影図から DSDA 法で得られた線素を一般化ハフ変換によってリニアメントとして抽出するアルゴリズムの開発  
 江川真史：新潟県中越地震発生前の旧山古志村森林基本図を忠実に再現した DEM の作成  
 Tran Ngoc Minh：Development of mathematical model for smooth surface fitting problem using general cubic B-spline function: Application on simulation of geological surface (一般双3次スプライン関数を用いた滑らかな曲面推定法の開発－地質学的応用－)  
 吉永佑一：火山活動に伴う隆起地形と火山性断層の形成メカニズム－鹿児島湾の新島を例にして－

北川陽一郎：大阪湾夢州沖ボーリングコアの花粉分析に基づく完新世の植生変遷  
田中裕一郎：沖積層（難波累層）泥質堆積物に含まれる砂の構成物組成変化  
西田慎一：大阪湾及びその周辺海域における貝形虫群集解析からみた過去約1万年間の海域環境変遷  
山本 巨：広島湾表層コアからみた過去約100年間の底生有孔虫群集の時空変化  
高橋和子：山口県 長者ヶ原の火山地質と岩石

#### [ 博士論文 ]

##### 課程博士

Abida Mumtaz Farooqi : The nature and extent of arsenic and fluoride affected groundwaters and soil from east Punjab, Pakistan: the role of geochemical factors on the mobility and probable sources of these pollutants in natural hydrological cycle (パキスタン、東部パンジャブ地方におけるヒ素とフッ素による地下水・土壌汚染の性質とその拡大：天然の水循環系におけるこれら汚染物質の移動を規制する地球化学的要因と推定される汚染源について)

奥田 尚：西南日本外帯の三宝山亜帯の形成過程

##### 論文博士

梶山敦司：Theoretical bases for three-dimensional geologic modeling of landslide (地すべりの三次元地質モデリングの理論的基礎)

#### 2-4. 2006年度教員の兼職

##### [ 地球物質Ⅰ ]

益田晴恵

大阪府環境審議会委員・水質計測部会委員・温泉部会委員

大阪府土壌地下水汚染対策検討委員会委員

兵庫県土壌汚染対策検討委員会委員

海洋研究開発機構深海調査研究計画委員会委員

統合国際深海掘削計画・科学計画委員会委員

堺市廃棄物処理施設に係る専門委員

堺市環境影響評価審査会委員

福岡大学理学部非常勤講師「地球圏科学特別講義」

##### [ 地球物質Ⅱ ]

奥平敬元

大阪教育大学非常勤講師「自然史Ⅰ」

日本地質学会代議員

NPO 大阪自然史センター理事

##### [ 地球史学 ]

八尾 昭

神戸大学発達科学部非常勤講師「宇宙・地球史3」

神戸大学理学部非常勤講師「日本列島構造発達史」

大阪教育大学教養学科非常勤講師「自然史特論」

日本地質学会代議員

##### [ 人類紀自然 ]

吉川周作

平成18年度底質サンプル評価方法検討調査委員

日本第四紀学会評議員

日本地質学会代議員

三田村宗樹

建設コンサルタンツ協会斜面防災研究委員会委員

産業技術総合研究所地質図JIS原案作成委員会委員

枚方市環境審議会臨時委員

都市再生機構土壌対策等技術検討委員会

奈良県国道169号防災対策検討委員会委員

##### [ 都市地盤構造学 ]

原口 強

原子力安全委員会原子炉安全専門審査会専門委員

産業総合研究所客員研究員

大阪大学非常勤講師「自然科学実験1, 2地学」

根本泰雄

大阪市立大学大学教育研究センター兼任研究員

(財)防災研究協会非常勤研究員

(社)日本地震学会代議員

(社)日本地震学会学校教育委員会委員

日本地球惑星科学連合教育問題検討委員会副委員長

同上委員会教育課程小委員会委員

同上委員会地学教育小委員会委員

同上委員会教員養成等検討小委員会委員

日本地球惑星科学連合国際地学オリンピック小委員会委員

##### [ 地球情報学 ]

升本眞二

日本情報処理開発協会時空間基盤データ活用検討委員会委員長

産業技術総合研究所地質図JIS原案作成委員会委員

大阪市立大学後援会産業科学技術研究センター研究員

#### 3. 地球学教室の研究活動

##### 3-1. 2006年度研究業績

地球学教室の教職員・大学院生・研究生などによる2006年中に刊行された著書・論文・報告書および学会等の主要な講演のリストを分野別にまとめました。

##### [ 地球物質学Ⅰ分野 ]

<著・編書>

大阪市立自然史博物館(編, 益田晴恵分担執筆): 大和川の自然ーきたない川?にもこんないるでー(第35回特別展解説書, 大阪市立自然史博物館, p. 73). 第1章4節 大和川の水質(p. 8-10), 第4章1節 水質の悪化(p. 52).

<学術雑誌等>

Li X-D, Masuda H, Kusakabe M, Ono M, Yanagisawa F, Zeng H-A: Contribution of atmospheric pollutants into groundwaters in the northern Sichuan Basin, China. *Geochem Jour*, 40, 103-119.

Li X-D, Masuda H, Kusakabe M, Yanagisawa F, Zeng H-A: Degradation of groundwater quality due to anthropogenic sulfur and nitrogen in the Sichuan Basin, China. *Geochem Jour*, 40, 309-332.

Itai T, Masuda H, Takahashi Y, Mitamura M, Kusakabe M: Determination of AsIII/AsV ratio in

- alluvial sediments of the Bengal Basin using X-ray absorption near edge structure. *Chem Lett*, 35, 866-867.
- 伊藤浩子・益田晴恵: 自然由来のヒ素含有地下水の起源とその形成要因—大阪北摂地域を例として—. *地質と調査*, 109, 25-29.
- Ito M, Gupta LP, Masuda H, Kawahata H: Thermal stability of amino acids in seafloor sediment in aqueous solution at high temperature. *Organic Geochem*, 37, 177-188.
- <学会講演>
- Farooqi A, Masuda H, Kusakabe M, Naseem M: Arsenic and fluoride in soil from Lahore and Kasur districts, Punjab, Pakistan. 地球惑星科学関連学会連合大会.
- 福田惇一・篠田圭司・三好直也・相川信之: 500-700 °C, 50-150 MPa における合成ベリルチャンネル中へ水分子拡散. 日本地球惑星科学連合 2006 年大会, 幕張.
- Fukuda J, Shinoda K, Miyoshi N, Aikawa N: Water Diffusion into Synthetic Beryl Channel at 500-700 °C, 50-150MPa. 19th General Meeting of the International Mineralogical Association, Kobe.
- 板井啓明・益田晴恵・高橋嘉夫・三田村宗樹・丸岡照幸・日下部 実・Seddique Ashraf・Kazi Matin Ahmed: バングラデシュ中東部, Sonargaon 地域におけるヒ素汚染地下水の形成機構—XAFS を用いたアプローチ—. 日本地球化学会年会.
- 伊藤美穂・Gupta Lallan・益田晴恵・川幡穂高: 熱水条件下における堆積物中のアミノ酸の吸着と溶出. 日本地球化学会年会.
- 久野光輝・益田晴恵・Fryer P.・日下部 実・古山勝彦: 南部マリアナトラフ拡大軸海嶺での火成活動に関する地球化学的な研究. 日本地球惑星科学連合 2006 年大会, 幕張.
- 小林智織・加藤真悟・掛川 武・佐藤誠吾・横堀伸一・益田晴恵・浦辺徹郎・山岸明彦: 南部マリアナトラフにおける熱水性堆積物の微生物相の解析. 日本地球惑星科学連合 2006 年大会, 幕張.
- 益田晴恵・Fryer P.・石橋純一郎・木村浩之・土岐知弘・下島公紀・YK05-11 Leg2 乗船研究者: マリアナトラフ南部の拡大海嶺における火成活動と熱水活動の関係. 日本地球惑星科学連合 2006 年大会, 幕張.
- 益田晴恵・中条武司・李 曉東: 大和川水系の富栄養化の拡大と原因—環境科学普及活動としての水質調査. 日本地球化学会年会.
- 森川徳敏・風早康平・高橋正明・益田晴恵・李 曉東・高橋 浩・大和田道子・仲間純子・半田宙子: 大阪平野に胚胎する温泉の希ガス水文地球化学—地球表層付近における希ガスについて—. 日本地球化学会年会.
- Morikawa N, Kazahaya K, Takahashi M, Masuda H, Li X, Takahashi H, Ohwada M, Atsuko Nakama A, Handa H: Relationship between geological structure and helium isotopes in deep groundwater; its application to deep groundwater hydrology. American Geophysical Union, Fall Meeting, San Francisco, December 2006.
- 中川聖子・奥平敬元・千葉仁・益田晴恵: 南海トラフ ODP Site 808 地点の火山灰層の自生スメクタイトの酸素同位体比: 付加体における流体移動への適用. 日本地球惑星科学連合 2006 年大会, 幕張.
- 野口直樹・篠田圭司: 高温高压下での石英—コーサイト相転移のその場観察. 日本地球惑星科学連合 2006 年大会, 幕張.
- Noguchi N, Shinoda K: Direct observation of the quartz-coesite phase transformation by using IH-DAC. 19th General Meeting of the International Mineralogical Association, Kobe.
- 篠田圭司・野口直樹: 高周波誘導加熱式高温ダイヤモンドアンビルセルの開発とラマン分光学的応用. 日本地球惑星科学連合 2006 年大会, 幕張.
- Shinoda K, Noguchi N: Direct observation of the quartz-coesite phase transformation by using IH-DAC. 19th General Meeting of the International Mineralogical Association, Kobe.
- Yamaoka K, Kawahata H, Gupta LP, Ito M, Masuda H: Thermal Stability of Amino Acids in Siliceous Ooze under Alkaline Hydrothermal Condition. American Geophysical Union, Fall Meeting, San Francisco, December 2006.
- [ 地球学物質学 II 分野 ]
- <学術雑誌等>
- Beppu Y, Okudaira T: Geology and metamorphic zonation of the Ryoke metamorphic belt in Kasado-jima Island, SW Japan. *Jour Mineral Petrol Sci*, 101, 240-253.
- Hoshino K, Nagatomi A, Watanabe M, Okudaira T, Beppu Y: Nahcolite in fluid inclusions from the Ryoke metamorphic rocks and its implication for fluid genesis. *Jour Mineral Petrol Sci*, 101, 254-259.
- Kokonyangi J, Kampunzu AB, Armstrong R, Yoshida M, Okudaira T, Arima M, Ngulube DA: The Mesoproterozoic Kibariide belt (Katanga, SE D.R. Congo). *Jour African Earth Sci*, 46, 1-35.
- 沢 勲・古山勝彦・大橋 健・藤本和貴夫・鹿島愛彦・桑原武志: ロシア, カムチャッカ半島の自然と洞窟—ゴレーリ火山の溶岩洞窟について—. *大阪経済法科大学論集*, 90, 1-24.
- <学会講演>
- Beppu Y, Okudaira T: Low-pressure metamorphism on the Ryoke metamorphic rocks from Kasado-jima Island, SW Japan. 19th General Meeting of the International Mineralogical Association, International Conference Center Kobe, Kobe, July 2006.
- 古山勝彦・永田久明・三宅康幸・寺島禎一: 立山弥陀ヶ原火山, 称名滝火砕流堆積物にみられるマグマ混合. 地球惑星合同学会 2006 年合同大会, 幕張国際会議場, 2006 年 5 月.

- 石井和彦・金川久一・重松紀生・奥平敬元: カリ長石の流動性と花崗岩質層状ウルトラマイロナイトの発達: 大阪泉南地域領家帯の例. 地球惑星合同学会 2006 年合同大会, 幕張国際会議場, 2006 年 5 月.
- Ishii K, Kanagawa K, Shigematsu N, Okudaira T: High ductility of K-feldspar and development of granitic banded ultramylonite in the Ryoike metamorphic belt, SW Japan. Asia-Oceania Geosciences Society 3rd Annual Meeting, Singapore, July 2006.
- Kimura J, Kunikiyo T, Osaka I, Shimoshioiri Y, Katakuse M, Tateno M, Kakubuchi S, Nagao T, Furuyama K, Tsuchiya N: Various slab fluids and melts from a common slab: Sources for intra-plate and arc basalts, high-Mg andesites, and adakites in the SW Japan arc. American Geophysical Union, Fall Meeting, San Francisco, December 2006.
- 木村希生・森 英樹・奥平敬元・岡本 敦・別府裕樹・福井亜希子・増田俊明: 領家帯柳井地域に産出する電気石泥質変成岩を用いた古応力解析: 三波川帯帯紅簾石片岩古応力解析結果との比較. 地球惑星合同学会 2006 年合同大会, 幕張国際会議場, 2006 年 5 月.
- 木村希生・奥平敬元・岡本 敦・増田俊明: マイクロプローブ法を用いた領家帯(西南日本)の古応力解析: 三波川帯帯が記録する古応力値との比較. 日本地質学会第 113 年学術大会, 高知大学, 2006 年 9 月.
- 中川聖子・奥平敬元・千葉 仁・益田晴恵: 南海トラフ ODP Site 808 地点の火山灰層中の自生スメクタイトの酸素同位体比: 付加体における流体移動への適用. 地球惑星合同学会 2006 年合同大会, 幕張国際会議場, 2006 年 5 月.
- Okudaira T, Yoshitake Y: Formation of a slab window beneath the Mid-Cretaceous SW Japan arc: Constraints from the geological observations and 2-D numerical analysis. American Geophysical Union, Fall Meeting, San Francisco, December 2006.
- Okudaira T, Hari Prasad B, Rajneesh Kumar, Hamamoto T: Tectonic evolution of the Nellore-Khammam schist belt, SE India: its implication to the collision of the Eastern Ghats terrane to the Dharwar-Baster craton. 113rd Annual Meeting of the Geological Society of Japan, Kochi University, September 2006.
- 佐藤隆春・古山勝彦・茅原芳正・別所孝範・鎌田浩毅・山本俊哉: 室生火砕流堆積物の給源火山は紀伊山地の大台コーロドロン. 日本火山学会 2006 年秋季大会, 阿蘇いこいの村, 2006 年 10 月.
- 高橋和子・古山勝彦: 山口県長者ヶ原の火山地質と岩石. 日本火山学会 2006 年秋季大会. 阿蘇いこいの村, 2006 年 10 月.
- Adachi N, Ezaki Y, Pickett JW: Marked accumulation patterns characteristic of Lower Devonian stromatoporoid bindstone: palaeoecological interactions between skeletal organisms and microbes. *Palaeogeography, Palaeoclimatology, Palaeoecology*, 231, 331-346.
- Fujinaga K, Nozaki T, Nishiuchi T, Kuwahara K, Kato Y: Geochemistry and origin of Ananai stratiform manganese deposit in the Northern Chichibu Belt, central Shikoku, Japan. *Resource Geol*, 56, 399-414.
- Hota RN, Maejima W, Mishra B: Similarity of palaeocurrent pattern of Lower Gondwana formations of the Talchir and the Ong-river basins of Orissa, India - An indication of dismemberment of a major Gondwana basin. *Gondwana Res*, 10, 363-369.
- Kuwahara K, Fujinaga K, Kato Y: Radiolarian age of manganese ore and red chert from the Ananai manganese deposit in the Northern Chichibu Belt, central Shikoku, Japan. *Resource Geol*, 56, 415-421.
- Maejima W, Hota RN, Mishra B: Turbidite channel and overbank-levee sedimentation of the Permian-Carboniferous Talchir Formation, Talchir Gondwana basin, Orissa, India. *Jour Geosci, Osaka City Univ*, 49, 49-58.
- Mahalik NK, Maejima W: Kuturia boulder bed and provenance characteristics of the Talchir Formation at the eastern closure of the Talchir Gondwana basin. *SGAT Bull.*, 7, 47-51.
- 佐藤隆春・大和大峯研究グループ: 大峯・大台コーロドロン - 紀伊山地中央部にみられる弧状および半円形の断層・岩脈群と陥没構造-. *地球科学*, 60, 403-413.
- Shimakawa M, Yao A: Lower-Middle Permian radiolarian biostratigraphy in the Qinzhou area, South China. *Jour Geosci, Osaka City Univ*, 49, 31-47.
- Sobhy M, Ezaki Y: First record of *Heterocorallia* (*Hexaphyllia* STUCKENBERG 1904) from the Lower Carboniferous (Viséan) of west-central Sinai, Egypt. *Senckenbergiana Lethaea*, 86, 1-21.
- 菅森義晃: 京都西山地域の上部ペルム系高槻層, 中部三疊系島本層及び三疊紀堆積岩複合体. *地質学雑誌*, 112, 390-406.
- <その他報告>
- 菅森義晃: INTERRAD XI & TRIASSIC STRATIGRAPHY SYMPOSIUM 参加報告. *日本地質学会 News*, vol. 9, no. 7, 32-33.
- 八尾 昭: 蕎原の地質から日本列島の地史へ. 2005 年度文部科学省サイエンス・パートナーシップ・プログラム (SPP) 補助事業 (招 19) 報告書, 大学研究者とコラボレートする高校地学野外実習, 大阪教育大学附属高等学校天王寺校舎, 15-21.
- 八尾 昭: 犬山チャート. 平成 17 年度サイエンス・パー

[ 地球史学分野 ]  
<学術雑誌等>

- トナーシップ・プログラム事業「教員研修」報告書(教253), 野外研修「歴史災害と地球環境の変動を見るー根尾谷断層と犬山チャート」, 大阪府教育センター教科教育理科第二室, 3-38.
- 八尾 昭: 和歌山県湯浅地域の地質. 平成 18 年度中学校「理科」及び高等学校「地学」研修資料, 大阪府教育センター教科教育理科第二室, 1-20.
- 八尾 昭・酒井豊三郎・鈴木紀毅・大金 薫: 放散虫 Radiolaria. 第 3 回微化石サマースクール「放散虫・貝形虫」テキストブック, R1-R44.
- <学会等講演>
- 足立奈津子・江崎洋一: シルル・デボン系礁成石灰岩の特異性ー枠組み骨格生物と微生物類の共創関係ー. 日本古生物学会第 155 回例会(京都大学)講演予稿集, 44.
- Adachi N, Ezaki Y: Microbial impact on the creation of Lower Devonian reefal limestones. Abstracts of the Second International Palaeontological Congress, Beijing, China. 218.
- Adachi N, Ezaki Y: Accumulation patterns and nested structures in Devonian bindstones: clues to biotic interrelations and palaeoecological consequences. 17th International Sedimentological Congress, Fukuoka, Japan. Abstracts, 137.
- 足立奈津子・江崎洋一・劉 建波: 南中国安徽省下部オルドビス系礁を構成する生物群と礁の基本特性. 日本地質学会第 113 年学術大会(高知大学)講演要旨, 77.
- Alipour L, Ezaki Y.: Colony development in initial growth stage of a Permian rugose coral *Szechuanophyllum*. 日本古生物学会 2006 年年会(島根大学)講演予稿集, 37.
- Caridroit M, Musavu-Mousavu B, Wonganan N, Shang Q, Kuwahara K, Debeauvais L, Crasquin S: Radiolarians and the P-T boundary: Geochemistry, magnetic susceptibility and diversity. InterRad 11 and Triassic Stratigraphy Symposium, Programme and Abstracts, 46.
- Ezaki Y: Mode of increase by division in Rugosa: palaeobiological and structural implications for colonial organisms. Abstracts of the Second International Palaeontological Congress, Beijing, China. 127-128.
- Ezaki Y, Liu JB: Lowest Triassic microbialites in South China: geomicrobiological proxies for their textures and structures. 17th International Sedimentological Congress, Fukuoka, Japan. Abstracts, 268.
- 江崎洋一・劉 建波・足立奈津子: 中国安徽省下部オルドビス系(紅花園層)に特徴的な海綿・微生物礁-南中国最下部トリアス系微生物礁との比較-. 日本地質学会第 113 年学術大会(高知大学)講演要旨, 77.
- 江崎洋一・安原有美: 石炭紀束状四射サンゴ *Diphyphyllum* にみられる分裂様式-無性増殖の規則性と変異性-. 日本古生物学会第 155 回例会(京都大学)講演予稿集, 45.
- Ghandour IM, Maejima W: Facies analysis, sequence stratigraphy and tectono-sedimentary model of the pre-Cenomanian deposits, Saint Paul Area, Southern Galala, Gulf of Suez, Egypt. 17<sup>th</sup> International Sedimentological Congress, Abstracts vol. A, 231.
- Ghandour IM, Maejima W: Facies analysis, sequence stratigraphy and depositional model of the Middle Jurassic lower Safa Member, Gebel Al-Maghara, Northern Sinai, Egypt. 17<sup>th</sup> International Sedimentological Congress, Abstracts vol. A, 232.
- Hota RN, Maejima W: Geometry of the interseam sandbodies of the Permian Barakar Formation, Talchir Gondwana basin, Orissa, India. 17th International Sedimentological Congress, Abstracts vol. A, 221.
- 桑原希世子・八尾 昭・姚 建新・王 訓城: 中国安徽省銅陵のベルム系孤峰層から産する放散虫化石. 日本古生物学会第 155 回例会予稿集, 106.
- Liu JB, Ezaki Y, Yang SR: High-resolution environmental reconstruction of the aftermath of the end-Permian mass extinction: evidence from microbialite succession in South China. Abstracts of the Second International Palaeontological Congress, Beijing, China. 208-209.
- Liu JB, Ezaki Y, Yang SR: Biostratigraphy and cyclostratigraphy of the microbialites successions above Permo-Triassic boundary in South China. 17th International Sedimentological Congress, Fukuoka, Japan. Abstracts, 136.
- 前島 渉・Mishra B・Hota RN: インド、オリッサ州の下部白亜系アトガー累層の汀線堆積物. 日本地質学会第 113 年学術大会(高知)講演要旨, 197.
- Maung M, Suzuki H, Kuwahara K, Ohno T: Early Cretaceous radiolarian fauna from the Tagaung Taung area, central Myanmar. Abstracts with Programs, The 2006 Annual Meeting, The Palaeontological Society of Japan (June 23-25, 2006, Matsue, Shimane Pref.), 55.
- 室田真宏・前島 渉: 泉南地域における和泉層群北縁相の堆積システム. 日本地質学会第 113 年学術大会(高知)講演要旨, 197.
- 西原ちさと・八尾 昭: 美濃帯のジュラ紀中世(Bajocian)放散虫類の群集変遷. 日本古生物学会第 155 回例会講演予稿集, 72.
- 嶋川未来子: 丹波帯篠山セクションから産出するベルム紀古世放散虫 *Albaillella* について. 日本地質学会第 113 年学術大会講演要旨, 229.
- Shimakawa M, Yao A: Faunal change of Early - Middle Permian radiolarians in the Qinzhou area, South China. Programme and Abstracts, InterRad 11 & Triassic Stratigraphy Symposium, Wellington, New Zealand, 122.
- Sobhy M, Ezaki Y: A new genus of solitary rugose corals from the Lower Carboniferous (Viséan) Um



- Bogma Formation, west central Sinai, Egypt. 日本古生物学会第155回例会(京都大学)講演予稿集, 46.
- Sugamori Y: Permian and Triassic radiolarians from the Paleozoic and Mesozoic of the Kyoto Nishiyama area, SW Japan. Programme and Abstracts, InterRad 11 & Triassic Stratigraphy Symposium, Wellington, New Zealand, 125.
- Sugamori Y: Late Permian radiolarians from the Takatsuki Formation in the Kyoto Nishiyama area, SW Japan. Programme and Abstracts, InterRad 11 & Triassic Stratigraphy Symposium, Wellington, New Zealand, 126.
- 菅森義晃: 広根地域(兵庫県・大阪府)の超丹波帯の再検討. 日本地球惑星科学連合 2006 年大会講演要旨, G147-P008.
- 菅森義晃: 兵庫県南東部に分布する兵庫県南東部に分布する超丹波帯の碎屑岩の堆積年代. 日本地質学会第113年学術大会講演要旨, 177.
- すぎ山哲男・木戸絵里香・新川 公・長井孝一・江崎洋一: 日本人研究者が記載した古生代サンゴ化石タイプ標本の分類学的総括: 矢部・早坂標本の所在確認調査について. 日本地質学会西日本支部会(佐賀大学).
- すぎ山哲男・木戸絵里香・新川 公・江崎洋一・長井孝一・有角友希: 日本のサンゴ化石研究の基盤となったタイプ標本の所在確認とその分類学的重要性. 日本古生物学会 2006 年年会(島根大学)講演予稿集, 37.
- Tokuda Y, Ezaki, Y: Marked adaptations to soft substrates of the azooxanthellate, solitary scleractinian corals *Flabellum* and *Truncatoflabellum*. Abstracts of the Second International Palaeontological Congress, Beijing, China. 124-125.
- Tokuda Y, Ezaki Y, Yokokawa M: Adaptations to soft substrates of azooxanthellate solitary scleractinian corals *Flabellum* and *Truncatoflabellum*: a flume experimental approach. 17th International Sedimentological Congress, Fukuoka, Japan. Abstracts, 326.
- 都築 宏・八尾 昭: 志摩半島東部地域の秩父北帯のジュラ紀付加コンプレックス. 日本地質学会第 113 年学術大会講演要旨, 45.
- Vaziri SH, Yao A: First record of Permian (Artinskian - early Djulfian) radiolarians from Iran. Programme and Abstracts, InterRad 11 & Triassic Stratigraphy Symposium, Wellington, New Zealand, 135.
- Yao A, Kuwahara K, Ezaki Y, Liu JB, Hao WC, Yao JX: Radiolarian faunal change through the Permian/Triassic boundary in Japan and South China. Abstracts of the Second International Palaeontological Congress, Beijing, China. 501-502.
- 八尾 昭・桑原希世子・嶋川未来子・江崎洋一・劉 建波・はお維城・姚 建新: 南中国地塊のペルム珪質岩相の分布と年代. 日本地質学会第 113 年学術大会(高知大学)講演要旨, 57.
- 八尾 昭・桑原希世子・塚原洋剛・姚 建新・紀 戦勝・李家驥: 揚子地塊上のペルム系-三疊系の放散虫群集(その8)-広西壮族自治区のペルム紀放散虫化石-1. 日本古生物学会 2006 年年会講演予稿集, 47.
- 八尾 昭・桑原希世子・姚 建新・王 訓城: 揚子地塊上のペルム系-三疊系の放散虫化石群集(その7)-中国安徽省南部と広西壮族自治区のペルム系孤峰層の比較-1. 日本古生物学会第 155 回例会 講演予稿集, 105.
- 八尾 昭: 日本の中生代放散虫研究の発展と将来. 有孔虫・放散虫研究集会 講演予稿集, 14-15.

[ 人類紀自然学分野 ]

<著・編書>

熊井久雄編著「人類紀自然学」共立出版, 312p.

<学術雑誌等>

井内美郎・吉川周作・井上卓彦・天野敦子・芦田貴史: 大阪湾海底堆積物の音波探査記録と夢洲沖ボーリング資料との対応. 第 16 回環境地質学シンポジウム論文集, 217-220.

Ishitake M, Moriwaki H, Katahira K, Yamamoto O, Tsuruho K, Yamazaki H, Yoshikawa S: Vertical profile of polycyclic aromatic hydrocarbons in a sediment core from reservoir in Osaka City. *Environmental Geol.* 52, 123-128.

金 昌柱・孫 承凱・張 穎奇: 華北鮮新世大型トガリネズミ化石 *Lunanosorex* (哺乳綱, 食虫目). 古脊椎動物学報, 45, 74-88.

加田平賢史・森脇 洋・吉川周作・山本 攻・藤田忠雄: 大阪市域における自然起源の土壤中重金属量と溶出特性. 大阪市立環境科学研究所報告調査・研究年報, 68, 43-49.

北田奈緒子・竹村恵二・三田村宗樹: ボーリングデータベースを用いた大阪堆積盆地(大阪湾岸域-大阪平野)の堆積環境と表層構造. 地球号外 54, 活断層・古地震とアクティブテクトニクス, 216-222.

Mitamura M, Yamamoto K, Nishio T: Evaluation and Detection of Filled up Inland Water Area by Comparison between Old and New Topographic Maps in Osaka, Japan. Proceedings of International Symposium on Geoinformatics for Spatial Infrastructure Development in Earth and Allied Sciences 2006, 287-292.

國分陽子, 安田健一郎, 間柄正明, 宮本ユタカ, 桜井 聡, 白田重和, 山崎秀夫, 吉川周作: 長崎及び熊本地方に飛散した長崎原爆由来のプルトニウム分布. Proceedings of 7th workshop on Environmental Radioactivity, 36-40.

西田慎一・吉川周作: 大阪湾夢洲沖ボーリングコアの貝形虫群集解析に基づく過去約 1 万年間の環境変遷. 第 16 回環境地質学シンポジウム論文集, 221-224.

Tsugeki K, Gotoh T, Uchiyama T, Yoshikawa S: Taxonomical list and ecology of diatom remains in

- the sediments during the past few centuries of three reservoirs of Sayamaike, Koderaike and Hataoike, Osaka prefecture, Japan. *Diatom*, 22, 35-47.
- Tsujimoto A, Nomura R, Yasuhara M, Yamazaki H, Yoshikawa S: Impact of eutrophication on shallow marine benthic foraminifers over the last 150 years in Osaka Bay, Japan. *Marine Micropaleontol.*, 60, 258-268.
- Tsujimoto A, Nomura R, Yasuhara M, Yoshikawa S: Benthic foraminiferal assemblages in Osaka Bay, southwestern Japan: faunal changes over the last 50 years. *Paleontol. Res.* 10, 141-161.
- 辻本 彰・吉川周作・三瓶良和: 全有機炭素・窒素・イオウ濃度分析及び有孔虫群集解析に基づく河内平野中央部における完新世の堆積環境変化. 環境地質学シンポジウム論文集, 16, 231-236.
- 山下大輔・吉川周作・塚腰 実・長岡信治・熊原康博: 愛媛県大洲・内子盆地に分布する下部-中部更新統の層序と編年. 第四紀研究, 45, 463-477.
- 吉田広人・廣瀬孝太郎・塚田 豊・三田村宗樹・吉川周作: 大阪湾夢洲沖コアにおける約 1 万年間の水域環境変遷. 第 16 回環境地質学シンポジウム論文集, 225-230.
- 吉田広人・廣瀬孝太郎・塚田 豊・三田村宗樹・吉川周作: 大阪湾夢洲沖コアにおける過去約 1 万年間の水域環境変遷. 環境地質学シンポジウム論文集, 16, 225-230.
- 吉川周作・喜多真一・山崎秀夫: 大阪湾夢洲沖ボーリングコアの岩相層序と化学層序. 第 16 回環境地質学シンポジウム論文集, 211-216.
- <雑報>
- 吉川周作: 書評「テフラ学入門ー野外観察から地球環境史の復元までー(黒川勝巳著)」地学双書 36, 地質学会 News 9, 7, 25.
- 吉川周作: 書評「道路堆積物による都市環境の評価ー環境地質学と法地質学への応用ー(平岡義博著)」地研専報 55, 地質学会 News, 9, 5, 7.
- <学会講演>
- 林 竜馬・高原 光・壇原 徹・井内美郎・吉川周作: 丹波高地神吉盆地および琵琶湖高島沖堆積物の花粉分析に基づく最終間氷期以降の気候変動に対する植生の応答. 日本第四紀学会, 東京.
- 林 竜馬・高原 光・壇原 徹・井内美郎・吉川周作: 丹波高地神吉盆地および琵琶湖堆積物の花粉分析に基づく最終間氷期以降の気候変動に対する植生の応答. Bicer 協議会シンポジウム, 名古屋.
- 廣瀬孝太郎・安原盛明・山崎秀夫・吉川周作: 大阪湾における人為的改変・水質汚濁に対する珪藻群集の応答. 日本第四紀学会, 東京.
- 井内美郎・吉川周作・井上卓彦・天野敦子・芦田貴史: 大阪湾海底堆積物の音波探査記録と夢洲沖ボーリング資料との対応. 第 16 回環境地質学シンポジウム, 東京.
- 井内美郎・吉川周作・井上卓彦・岩本直哉・天野敦子: 大阪湾海底堆積物の音波探査記録と夢洲沖ボーリング資料との対応. 日本地質学会, 高知.
- 井上 淳: 奈良県曾爾高原ススキ原の山焼きにおける炭の分布. 植生史学会第 21 回大会, 東京大学.
- Inoue J: Research of charcoal particles in Andosols around Lake Biwa, central Japan. 18th World Congress of Soil Science, Philadelphia, USA.
- Inoue J, Takahara H, Yoshikawa S, Inouchi Y: Reconstruction of the last 140,000yr fire history from microscopic charcoal in Lake Biwa sediments, central Japan. Abundant charcoal in early Holocene sediments is derived from anthropogenic fires or natural fires related to climatic change?!" HOLIVAR 2006 Open Science Meeting "Natural Climate Variability and Global Warming", London, UK.
- 板井啓明・益田晴恵・高橋嘉夫・三田村宗樹・丸岡照幸・日下部 実・Seddique A.・Ahmed K.M.: バングラデシュ中東部, Sonargaon 地域におけるヒ素汚染地下水の形成機構 -XAFS を用いたアプローチ-. 第 53 回日本地球化学会.
- 加田平賢史・森脇 洋・吉川周作・山本 攻・藤田忠雄: 大阪市域における自然起源の土壤中重金属の溶出量と含有量. 第 12 回地下水・土壌汚染とその防止対策に関する研究集会, 京都大学.
- 北田奈緒子・竹村恵二・三田村宗樹・大島昭彦: 関西圏における表層地質の分布状況-ボーリングデータベースを用いた地層の分布-. 日本地質学会, 高知.
- 北川陽一郎・吉川周作・高原 光: 大阪湾夢洲沖ボーリングの花粉分析に基づく過去 5000 年間の植生変遷. 日本地質学会, 高知.
- 國分陽子・安田健一郎・間柄正明・宮本ユタカ・桜井 聡・白田重和・吉川周作・山崎秀夫・長岡信治: 長崎市西山地区のプルトリウム. 放射化学討論会, 茨城.
- 國分陽子・安田健一郎・間柄正明・宮本ユタカ・桜井 聡・白田重和・吉川周作・山崎秀夫・長岡信治: 長崎西山貯水池堆積物に堆積するプルトリウムの起源. 日本原子力学会, 北海道大学.
- 國分(齋藤)陽子・安田健一郎・間柄正明・宮本ユタカ・桜井 聡・白田重和・村上晶子・井上 淳・吉川周作・山崎秀夫・長岡信治: 長崎市西山貯水池堆積物中の長崎原爆「黒い雨」. 日本第四紀学会, 東京.
- 國分(齋藤)陽子・安田健一郎・間柄正明・宮本ユタカ・桜井 聡・白田重和・山崎秀夫・吉川周作: 長崎, 熊本に飛散した長崎原爆のプルトリウム. 環境放射能研究会, 東京.
- 三田村宗樹: 平野部の開発と地盤災害, 日本第四紀学会, 東京.
- 三田村宗樹・岩井大蔵・吉川周作・山崎博史・井内美郎: 琵琶湖湖底表層堆積物および流入河川堆積物の帯磁率分布. 日本地質学会三支部合同例会, 岡山.
- Mitamura M, Yoshikawa S: Quaternary Stratigraphy of the Osaka Plain, Central Japan and its Correlation with the Marine Isotope Stage. International Symposium "Stratigraphy, Paleontology and Paleoenvironment of Pliocene-

- Pleistocene of Transbaikalia and Interregional Correlations”, Ulan-Ude, Russia.
- 三田村宗樹・塚田 豊・大島昭彦・吉川周作: 大阪平野 大阪港沖の沖積層形成過程と沖積粘土の物理特性. 第 41 回地盤工学研究発表会, 技術者交流特別セッション「新しい地圏環境研究の展開」, 鹿児島.
- 三田村宗樹・岩井大蔵・吉川周作・山崎博史・井内美郎: 琵琶湖湖底表層堆積物および流入河川堆積物の帯磁率分布. 日本地質学会近畿・西日本・四国三支部合同例会, 岡山.
- 水野清秀・山崎晴雄・三田村宗樹・杉山雄一・久保純子: シンポジウム「環境問題・自然災害を第四紀から考える」趣旨説明. 日本第四紀学会, 東京.
- 森脇 洋・加田平賢史・山本 攻・藤田忠雄・吉川周作: 大阪市内溜池における堆積試料中の環境汚染物質の解析. 第 33 回環境保全・公害防止研究発表会, 新潟.
- Murakami, A., Noma, Y. and Yoshikawa, S.: Analysis of influence of fossil fuel combustion using fly ash particles in sediment cores: comparison of urban and remote area in Japan. HOLIVAR 2006 Open Science Meeting Natural Climate Variability and Global Warming. University College London. 12-15. June 2006.
- 村上晶子・杉谷寿子・吉川周作: 化石燃料燃焼由来の球状粒子を用いた産業活動の歴史トレンド解析—都市部間における地域の変化 広島湾・大阪湾との比較—. 日本第四紀学会, 東京.
- 村上晶子・吉川周作: 近畿地方における溜池表層堆積物中の球状粒子 (SCP・IAS) と浮遊粒子状物質 (SPM) との関係. 大気環境学会, 東京.
- 長橋良隆・小林聡子・奥平敬元・吉川周作・吉田武義・里口保文: 近畿地方の第四紀テフラ層序に基づく大規模爆発的噴火の層位と噴出体積. 日本火山学会, 熊本.
- 西田慎一・吉川周作: 大阪湾夢洲沖ボーリングコアの貝形虫群集解析に基づく過去約 1 万年間の環境変遷. 第 16 回環境地質学シンポジウム, 東京.
- 西田慎一・安原盛明・吉川周作: 大阪湾北東部における完新世貝形虫群集の変遷と堆積環境. 日本地質学会, 高知.
- 野村律夫・香月興太・河野重範・辻本 彰・前川公彦: 20 世紀のサロマ湖の環境変化: 変化過程を有孔虫群集から検証する. 日本地質学会, 高知.
- 野村律夫・河野重範・辻本 彰・前川公彦: 底生有孔虫群集が変化するとき: サロマ湖の人為的自然改造を例として. 日本古生物学会 2006 年年会.
- 竹村恵二・北田奈緒子・三田村宗樹・大島昭彦: 関西圏における表層地質の研究状況ボーリングデータベースによる理学・工学分野の相互研究. 日本地質学会, 高知.
- 辻本 彰・吉川周作・三瓶良和: 全有機炭素・窒素・イオウ濃度分析及び有孔虫群集解析に基づく河内平野中央部における完新世の堆積環境変化. 第 16 回環境地質学シンポジウム, 東京.
- 辻本 彰・安原盛明・野村律夫・山崎秀夫・吉川周作: 大阪湾堆積物に記録された人為的富栄養化による底生生態系の変化: 有孔虫・貝形虫からの証拠. 日本地質学会, 高知.
- 辻本 彰・三瓶良和・吉川周作: 河内平野における完新世の水域環境の変遷と底生有孔虫群集変化. 日本第四紀学会, 東京.
- 辻本 彰・野村律夫・河野重範: 北海道風蓮湖における近現代の人間活動に伴う環境変化と底生有孔虫群集変化. 日本古生物学会第 155 回例会.
- 塚田 豊・三田村宗樹・大島昭彦・吉川周作: 大阪湾夢洲沖積粘土の形成過程と物理特性の検討. 日本応用地質学会関西支部, 大阪.
- Tsukada Y, Mitamura M, Oshima A, Yoshikawa S: Reference on formation process and physical properties of the Holocene mud layer of the Yumeshima-oki core from Osaka Bay. Abstracts, Japan Geoscience Union Meeting (CD-ROM) Q127-P006.
- 廣瀬孝太郎・安原盛明・山崎秀夫・吉川周作: 大阪湾における人為的改変・水質汚染に対する珪藻群集の応答. 日本第四紀学会, 東京.
- 山本巨・辻本彰・山崎秀夫・安原盛明・吉川周作: 広島湾表層コアから明らかになった過去 100 年間の底生有孔虫群集の時空変化. 日本地質学会, 高知.
- 吉田広人・広瀬孝太郎・山崎秀夫・兵頭政幸・柏谷健二・吉川周作: 余呉湖における約 4500 年間の珪藻群集組成変化と人為的改変. 日本地質学会, 高知.
- 吉田広人・広瀬孝太郎・塚田 豊・三田村宗樹・吉川周作: 大阪湾夢洲沖コアにおける過去約 1 万年間の水域環境変遷. 第 16 回環境地質学シンポジウム, 東京.
- 吉川周作・喜多真一・山崎秀夫: 大阪湾夢洲沖ボーリングコアの岩相層序と化学層序. 第 16 回環境地質学シンポジウム, 東京.
- 吉川周作・三田村宗樹: 大阪湾夢洲沖ボーリングコアの岩相層序と編年. 日本地質学会, 高知.
- 吉川周作・村上晶子・石竹美帆: 池堆積物に記録された人間活動による環境変化. 日本第四紀学会, 東京.
- Zhang Y, Kawamura Y, Jin C: A new species of the extinct vole *Villanyia* from the Early Pleistocene of central China, with comments on the relationship to the transbaikalian species. INQUA International Symposium “Stratigraphy, Paleontology and Paleoenvironment of Pliocene-Pleistocene of Transbaikalia and Interregional Correlations”, Ulan-Ude, Russia.
- <招待講演>
- 井上 淳: 植生史解明のための室内実験法 1—微粒炭分析の基礎と方法—. 日本植生史学会第 25 回談話会, 2006 年 9 月 9, 10 日, 京都.
- 井上 淳: 日本植生史学会奨励賞受賞講演「滋賀県曾根沼堆積物の微粒炭分析による約 17000 年前以降の火事の歴史」. 日本植生史学会第 21 回大会, 2006 年 11 月 25 日, 東京.
- 三田村宗樹: 大阪層群—形成過程と地盤特性—. 関西地質調査業協会技術講演会. 2006 年 11 月 15 日, 大阪.

[ 都市地盤構造学分野 ]

< 学術雑誌等 >

原口 強・鳥居和樹・藤原 治・島崎邦彦・今泉俊文: 東北地方三陸海岸, 大槌湾の津波堆積物. 月刊地球, 28, 539-545.

Inoue T, Kimura K, Miyachi Y, Haraguchi T, Tanabe S, Inouchi Y: Identification of the source horizon of earthquake-jetted sand based on grain size characteristics and sand fraction composition. Earth Sci, 60, 315-324.

藤原 治・平川一臣・入月敏明・鎌滝孝信・内田淳一・阿部恒平・長谷川四郎・高田圭太・原口 強: 1703 年元禄・1923 年大正関東地震に伴う房総半島南西岸の館山浜堤平野システムの発達過程. 第四紀研究, 45, 235-247.

< その他報告 >

根本泰雄: 新しい地球惑星科学教育の創世に向けて～地震教育, 地震防災教育の視点から～. なみふる, 55, 6-7.

根本泰雄: 液状化のメカニズムを考える” 地盤液状化観察装置「エッキー君」. 大阪市立大学基礎教育実験棟情報発信誌 BEEBER, 6, 33-35.

根本泰雄: ご挨拶 -大阪市立大学での強震観測. 関西地震観測研究協議会 NL, 2006 年 1 月号, 1.

< 学会等講演 >

江川真史・梶山敦司・栗栖悠貴・原口 強: 新潟県中越地震に伴う斜面変動の地形・地質特性. 日本地球惑星科学連合大会予稿集(CD-ROM), Y153-P007.

江川真史・塩野清治・升本眞二・原口 強: 東山丘陵の 3 次元地質モデリングに向けて. 日本応用地質学会関西支部, 平成18年度研究発表会論文集, 25-26.

Fujioka T, Nemoto H: Development of teaching materials and methods concerning natural disasters from the viewpoint of geoscience educational partnership in Japan. Schriftenreihe der Deutschen Gesellschaft für Geowissenschaften, 48, 42.

Fujiwara O, Kamataki T, Hirakawa K, Irizuki T, Hasegawa S, Sakai T, Haraguchi T: Stacking pattern of inner structures characterizing Tsunami deposits. AGU 2006 Fall meeting, T33A-0496.

Fujiwara O, Sakai T, Haraguchi T: Tsunami beds and their sedimentary structures from the lagoon mud of the Isumi River Lowland, Central Boso Peninsula. Pacific Coast of Japan 17th International Sedimentological Congress.

呉屋健一・原口 強・鳥居和樹・今泉俊文・宮内崇裕・島崎邦彦: 東北地方三陸海岸の津波堆積物その 3～岩手県大船渡市, 碓石浜地区～. 京都大学防災研究所研究集会「地震発生サイクルとその複雑性」.

原口 強・鳥居和樹・藤原治・島崎邦彦・今泉俊文: 東北地方三陸海岸, 大槌湾の津波堆積物. 北淡活断層シンポジウム2006, 講演要旨集, 57-58.

原口 強・吉永佑一・遠田晋次: 高分解能音波探査による青木湖における神城断層の表層構造. 北淡活断層シ

ンポジウム2006, 講演要旨集, 45-46.

原口 強・藤原 治・島崎邦彦・今泉俊文: 東北地方三陸海岸, 大槌湾の津波堆積物. 日本地球惑星科学連合 2006 年大会予稿 CD-ROM.

原口 強・呉屋健一・今泉俊文: 岩手県大船渡市碓石浜の津波堆積物. 第23回歴史地震研究発表会講演要旨集, 21.

原口 強: 東北地方で発生した超巨大地震. 京都大学防災研究所研究集会「地震発生サイクルとその複雑性」.

原口 強・鳥居和樹・呉屋健一・今泉俊文・宮内崇裕・島崎邦彦: 東北地方三陸海岸の津波堆積物その 1～岩手県宮古市, 葉の子浜地区～. 京都大学防災研究所研究集会「地震発生サイクルとその複雑性」.

原口 強・鳥居和樹・呉屋健一・今泉俊文・宮内崇裕・島崎邦彦: 東北地方三陸海岸の津波堆積物その 4～岩手県陸前高田市, 高田松原地区～. 京都大学防災研究所研究集会「地震発生サイクルとその複雑性」.

原口 強・鳥居和樹・呉屋健一・今泉俊文・宮内崇裕・島崎邦彦: 東北地方三陸海岸の津波堆積物その 5～宮城県気仙沼市, 波路上崎野地区～. 京都大学防災研究所研究集会「地震発生サイクルとその複雑性」.

原口 強・島崎邦彦: 堆積物に残された過去 6 000 年間の三陸海岸大槌地域の津波と地殻変動の履歴. 東京大学地震研究所第836回地震研究所談話会.

原口 強・鳥居和樹・今泉俊文・島崎邦彦: 三陸海岸吉里吉里湿地の堆積物に残された津波と地殻変動の履歴. 東京大学地震研究所第3回地震サイクルシンポジウム.

Haraguchi T, Yoshinaga Y, Toda S: Subsurface 3D high-resolution fault imaging: An example from the Kamishiro fault in Lake Aoki obtained by acoustic exploration, central Japan. AGU 2006 Fall meeting, T33A-0496.

栗栖悠貴・原口 強: 直下型地震に伴う大規模岩盤地すべりの地形発達史(一ツ峰沢地区を例にして). 日本応用地質学会研究発表会講演論文集.

栗栖悠貴・原口 強・吉永佑一・江川真史: 新潟県中越地震に伴う一ツ峰沢の岩盤地すべり. 日本応用地質学会関西支部 平成18年度研究発表会論文集, 9-12.

栗栖悠貴・原口 強・吉永佑一・江川真史・梶山敦司: 新潟県中越地震時の岩盤すべりに伴う地表の変形構造. 北淡活断層シンポジウム2006, 講演要旨集, 67-70.

中川康一・岡本 隆・原口 強・根本泰雄・塚 偉・吉岡真弓・奥田智晴: 活動的地域における自然電位の多点観測および電位分布の時間変化特性. 日本地球惑星科学連合大会予稿集(CD-ROM), S114-P005.

根本泰雄: 日本の学校における理科教育の歴史と2006年問題. 第49回京都大学生存圏研究所研究集会.

根本泰雄: 学習指導要領に基づく初等・中等教育段階での理科授業数の変遷. 大阪市立大学第4回FD研究会.

根本泰雄・岡本義雄: SPPにおける高等学校と大学との連携による地震教育の試みー屈折法地震探査実践授業ー. 日本地震学会講演予稿集2006年度秋季大会D37.

根本泰雄・石田浩久・藤岡達也: 小学校と大学との連携による地震教育の試みー地震計を用いての震動計測実践授業ー. 日本地球惑星科学連合2006年大会予稿CD-

- ROM, J159-P011.
- Nemoto H, Murriello ES, Valender DG, Rashed AAMM, Fujioka T, Tokita Y: Different points of view for educational materials and curricula related to earthquakes at elementary and secondary educations in Japan, New Zealand, Egypt, Brazil, and Argentina. *Schriftenreihe der Deutschen Gesellschaft für Geowissenschaften*, 48, 90.
- Nishimura K, Miura H, Iwasaki S, Sawagaki T, Kawakami T, Minoshima K, Murakami Y, Sayanagi K, Haraguchi T: Development and preliminary test of acoustic survey system for submarine sediments under the Antarctic Sea ice. *Proceedings of Techno-Ocean 2006/19th JASNAOE Ocean Engineering Symposium Kobe, JAPAN, October 18-20, 2006, Paper No.103*
- 鳥居和樹・原口 強: 東北地方三陸海岸吉里吉里湿地における津波堆積物日本応用地質学会関西支部 平成18年度研究発表会論文集, 41-42.
- 鳥居和樹・原口 強・今泉俊文・宮内崇裕・島崎邦彦: 東北地方三陸海岸の津波堆積物その2～岩手県大槌町、吉里吉里地区～. 京都大学防災研究所研究集会「地震発生サイクルとその複雑性」.
- 鳥居和樹・原口 強・吉永佑一・高田圭太・今泉俊文: 東北地方三陸海岸、吉里吉里湿地の津波堆積物. 北淡活断層シンポジウム2006, 講演要旨集, 59-62.
- 吉永佑一・原口 強: 1779年桜島安永噴火に伴う鹿児島県新島の形成メカニズム. 日本応用地質学会関西支部平成18年度研究発表会論文集, 37-40.
- 吉永佑一・原口 強・井村隆介: 鹿児島湾新島(燃島)における火山性断層のテクトニクス. 北淡活断層シンポジウム2006, 講演要旨集, 41-44.
- 吉永佑一・原口 強・井村隆介: 鹿児島県新島で見られる火山性活断層および陥没地形の形成メカニズム. 日本地球惑星科学連合大会予稿集(CD-ROM), Y153-P009.
- Yoshinaga Y, Haraguchi T, Toda S, Miki D, Imura R: Movement of shallow magmatic sources inferred from volcanic-tectonic faults: An example from Shinjima Island nearby Sakurajima volcano, Kyushu, Japan. *AGU 2006 Fall meeting T33A-0497*.
- [ 地球情報学分野 ]
- <著・編書>
- Raghavan V, Masumoto S, Ninsawat S, Yoshida D, Nonogaki S, Yonezawa G, Nguyen Hoa Binh: Training notes on spatial data sharing using free and open source software 2006 (with software CD-ROM). Osaka City University FOSS4G Project, 166p.
- <学術雑誌等>
- Masumoto S, Nonogaki S, Nemoto T, Shiono K, Raghavan V: Development of visualization tool for geologic information on GRASS GIS. *Proceedings of International Symposium on Geoinformatics for Spatial Infrastructure Development in Earth and Allied Sciences 2006 (GIS-IDEAS2006)*, 281-286.
- Nonogaki S, Shiono K, Masumoto S, Ekawa M: An algorithm of surface estimation using cubic B-spline function for geologic modeling. *Proceedings of International Symposium on GIS-IDEAS2006*, 328-333.
- Ninsawat S, Raghavan V, and Masumoto S, Chemin Y: From GrassLinks to Web Processing services with GRASS GIS. *Proceedings of International Symposium on GIS-IDEAS2006*, 322-327.
- Raghavan V, Masumoto S, Hastings D: Free and Open Source Software for Geoinformatics - Present Status and Future Prospects. *Proceedings of International Symposium on GIS-IDEAS2006*, 157-162.
- Tran Ngoc Minh, Shiono K, Masumoto S: Application of general cubic B-spline function for geological surface simulation. *Proceedings of International Symposium on GIS-IDEAS2006*, 311-315.
- Tran Van Anh, Masumoto S, Raghavan V, Shiono K: Spatial distribution of subsidence in Hanoi detected by JERS-1 SAR interferometry. *Geoinformatics*, 18, 3-13.
- Tran Van Anh, Masumoto S, Shiono K, Raghavan V: Accuracy of topographical maps derived from JERS-1 SAR interferometry. *Proceedings of International Symposium on GIS-IDEAS2006*, 201-208.
- Yonezawa G, Masumoto S, Shiono K, Shibayama M: 3-D geologic modeling of faulted geologic structure. *Proceedings of International Symposium on GIS-IDEAS2006*, 365-370.
- <学会講演>
- 江川真史・梶山敦司・栗栖悠貴・原口 強: 新潟県中越地震に伴う斜面変動の地形・地質特性. 日本地球惑星科学連合大会予稿集(CD-ROM), Y153-P007.
- 江川真史・塩野清治・升本眞二・原口 強: 東山丘陵の3次元地質モデリングに向けて. 日本応用地質学会関西支部, 平成18年度研究発表会論文集, 25-26.
- 江川真史・塩野清治・升本眞二・野々垣進・原口 強: 新潟県中越地方東山丘陵の3次元地質モデリング. *情報地質*, 17, 92-93.
- 遠藤 誠・能美洋介: 巨礫のデジタル写真測量. *情報地質*, 17, 94-95.
- 升本眞二・ベンカテッシュ ラガワン: FOSS による公開 WebGIS の展開とデータコンテンツの課題. *情報地質*, 17, 76-77.
- 升本眞二: 地質情報活用のための WebGIS システム開発. 日本情報地質学会シンポジウム 2006 講演論文集, 85.
- 根本達也: Google 系公開ネットワークにおける地質情報の電子表現. *情報地質*, 17, 74-75.
- 根本達也: FOSS を用いた Web-GIS の構築と活用. 日本

- 情報地質学会シンポジウム 2006 講演論文集, 83-84.
- Ninsawat S, Raghavan V, Yoshida D, and Masumoto S: Adoption of AJAX and X3D technology in open source Web GIS application. *Geoinformatics*, 17, 120-121.
- Nisnawat S, Raghavan V, Masumoto S, Chemin Y, Nakano H: Implementing 3D Web-GIS system using X3D technology. *Open Source Geospatial Communities Joint Conference '06*, Lausanne, Switzerland, 11-15 September, 2006, Pid 143.
- 野々垣進・塩野清治・升本眞二: 3次 B-スプラインを用いた曲面推定法の有効性. *情報地質*, 17, 124-125.
- 大野翠子・ベンカテッシュ ラガワン・升本眞二・中野秀男: Moodle CMS を用いた GIS 教育のための eラーニングコンテンツの開発. *情報地質*, 17, 128-129.
- ベンカテッシュ ラガワン・升本眞二・森 亮・野田和徳: OSGeo 財団の設立と日本およびアジアに向かったの活動計画. *情報地質*, 17, 132-133.
- Tran Van Anh, Masumoto S, Raghavan V, Shiono K: DEM generation from InSAR and phase error due to water vapor in atmosphere. *Geoinformatics*, 17, 150-151.
- 山口久美子・塩野清治: 古生物の生存期間に関する公理の提案-時間軸分割の数学表現の基礎として-. *情報地質*, 17, 152-153.
- Yonezawa G, Masumoto S, Shiono K, Shibayama M: Modeling and visualization of faulted geologic structure. *Open Source Geospatial Communities Joint Conference '06*, Lausanne, Switzerland, 11-15 September, 2006, Pid 92.
- 3-2. 2006 年度海外研究等**
- <外国人研究者の招聘>
- Dr. Ram Chandra Tewari (ダラム・サマジ大学準教授): 大阪市立大学外国人招聘研究者, 10~11 月, 受入れ研究者: 前島 渉
- Dr. Ibrahim Mohamed Ghandour (タンタ大学講師): 大阪市立大学客員研究員, 8~9 月, 受入れ研究者: 前島 渉
- <2006 年度外国出張>
- 益田晴恵: <パキスタン> 2006 年 3 月 27 日~4 月 10 日 「パキスタンパンジャブ地域におけるフッ素・ヒ素複合汚染地下水の形成機構 (パキスタン地質調査所地球科学研究所との共同研究, 住友財団科学助成)」
- 益田晴恵: <アメリカ> 2006 年 9 月 1 日~9 月 11 日 「南部マリアナトラフの拡大史に関する地球化学的研究 (海洋研究開発機構・かいいいによる調査航海, 主席研究員)」
- 益田晴恵: <バングラデシュ> 2006 年 10 月 1 日~10 月 10 日 「バングラデシュにおけるヒ素汚染地下水の形成機構 (ダッカ大学との共同研究, 科学研究費補助金)」
- 益田晴恵: <アメリカ> 2007 年 3 月 6 日~3 月 12 日 「IODP/SPC 出席」
- 奥平敬元: <フィリピン> 2006 年 7 月 9 日~7 月 15 日 「第 3 回アジア・オセアニア地球科学国際会議出席・発表」
- 奥平敬元: <アメリカ> 2006 年 12 月 12 日~12 月 17 日 「アメリカ地球物理学連合秋季大会出席・発表」
- 江崎洋一: <中国> 2006 年 3 月 22 日~3 月 31 日 「ペルム/トリアス紀境界事変に関する共同研究」
- 江崎洋一: <中国> 2006 年 6 月 16 日~6 月 23 日 「第 2 回国際古生物会議に出席・研究発表」
- 江崎洋一: <中国> 2006 年 11 月 3 日~11 月 21 日 「南中国のオルドビス系とペルム/トリアス系境界に関する共同研究」
- 前島 渉: <インド> 2007 年 1 月 10 日~1 月 20 日 「西ボカロ堆積盆における下部ゴンドワナ累層群の堆積地質学的研究」
- 八尾 昭: <中国> 2006 年 3 月 8 日~3 月 17 日 「南中国の中・古生界に関する共同研究」 湖北省西部地域.
- 八尾 昭: <中国> 2006 年 6 月 16 日~6 月 21 日 「第 2 回国際古生物会議に出席・研究発表」
- 八尾 昭: <中国> 2006 年 11 月 15 日~11 月 21 日 「南中国のオルドビス系とペルム/トリアス系境界に関する共同研究」
- 八尾 昭: <中国> 2007 年 3 月 11 日~3 月 19 日 「南中国の中・古生界に関する共同研究」 四川省北部地域.
- 三田村宗樹: <ロシア> 「INQUA アジア太平洋地域年代層序学小委員会, 国際シンポジウム参加・発表」
- 三田村宗樹: <ベトナム> 10 月 8 日~10 月 12 日 「GIS-IDEAS 国際シンポジウム参加・発表」
- 三田村宗樹: <パキスタン> 2006 年 3 月 22 日~4 月 10 日 「パキスタンパンジャブ地域におけるフッ素・ヒ素複合汚染地下水の形成機構 (パキスタン地質調査所地球科学研究所との共同研究, 住友財団科学助成)」
- 原口 強: <アメリカ> 2006 年 12 月 11 日~12 月 17 日 「アメリカ地球物理学連合秋季大会出席・発表」
- 根本泰雄: <ドイツ> 2006 年 9 月 13 日~9 月 23 日 「The 5th International conference on Geoscience education 出席・発表」
- 升本眞二: <ベトナム> 2006 年 10 月 8 日~10 月 12 日 「GIS-IDEAS2006 国際シンポジウム参加・発表」
- <大学院生・研究生>
- Abida Mumtaz Farooqi: <パキスタン> 2006 年 3 月 21 日~4 月 26 日 「研究調査」
- 久野光輝: <アメリカ> 2006 年 9 月 1 日~9 月 11 日 「研究調査」
- Seddiqui Ashraf Ali: <バングラデシュ> 2006 年 9 月 25 日~10 月 10 日 「研究調査」
- 足立奈津子: <中国> 2006 年 6 月 16 日~6 月 23 日 「第 2 回国際古生物会議に出席・研究発表」
- 藤田麻悠子: <ニュージーランド> 2006 年 3 月 16 日~3 月 28 日 「第 11 回国際放散虫研究集会に出席・発表」
- 嶋川未来子: <ニュージーランド> 2006 年 3 月 14 日~3 月 31 日 「第 11 回国際放散虫研究集会に出席・発表」
- 菅森義晃: <ニュージーランド> 2006 年 3 月 8 日~3 月 31 日 「第 11 回国際放散虫研究集会に出席・発表」
- 菅森義晃: <ロシア連邦> 2006 年 9 月 21 日~10 月 12 日 「シホテアリン地域に分布する白亜系の古地磁気調

査に参加]

徳田悠希：＜中国＞ 2006年6月16日～6月23日「第2回国際古生物会議に出席・研究発表」

桑原希世子：＜中国＞ 2007年3月11日～3月19日「南中国の中・古生界に関する共同研究四川省北部地域」

井上 淳：＜イギリス＞ 2006年6月10日～6月16日「HOLIVAR 2006 Open Science Meeting Natural Climate Variability and Global Warming 参加・発表（大阪市立大学学友会大学院学生旅費等補助）」

井上 淳：＜アメリカ＞ 2006年7月8日～7月16日「18th World Congress of Soil Science 参加・発表（福武学術文化振興財団研究助成）」

張 穎奇：＜ロシア＞ 2006年8月28日～9月3日「International Symposium “Stratigraphy, Paleontology and Paleoenvironment of Pliocene-Pleistocene of Transbaikalia and Interregional Correlations” 参加・発表（大阪市立大学学友会大学院学生旅費等補助）」

村上晶子：＜イギリス＞ 2006年6月10日～6月16日「HOLIVAR 2006 Open Science Meeting Natural Climate Variability and Global Warming 参加・発表（大阪市立大学学友会大学院学生旅費等補助）」

村上晶子：＜中国＞ 2006年9月10日～9月17日「中国天津湖沼での試料採取（大阪市立大学後援会研究奨励助成）」

吉永佑一：＜アメリカ＞ 2006年12月11日～12月17日「アメリカ地球物理学連合秋季大会出席・発表」

Tran Van Anh：＜ベトナム＞ 2006年10月8日～10月12日「GIS-IDEAS2006 国際シンポジウム参加・発表」

野々垣進：＜ベトナム＞ 2006年10月8日～10月12日「GIS-IDEAS2006 国際シンポジウム参加・発表」

遠藤 誠：＜ベトナム＞ 2006年10月8日～10月12日「GIS-IDEAS2006 国際シンポジウム参加」

### 3-3. 2006年度研究補助金等（代表者）

前島 渉：日本学術振興会科学研究費補助金（基盤研究（C）(2)）「射流領域の大規模洪水流による堆積作用とその地層記録への保存ポテンシャル」

江崎洋一：日本学術振興会科学研究費補助金（基盤研究（C）(2)）「古生代前・中期と中生代最前期の礁生態系の存立様式—温室期地球環境の生態系創出過程の解明—」

菅森義晃：平成18年度深田研究助成「ペルム紀～ジュラ紀の東アジアと西南日本内帯の超丹波帯・丹波帯のテクトニクス」

井上 淳：福武学術文化振興財団研究助成金「奈良県曾爾高原における火災史の解明，特に火入れの変遷について」

三田村宗樹：日本学術振興会科学研究費補助金（基盤研究（B）(2)（海外学術））「バングラデシュの沖積平野におけるヒ素汚染地下水形成機構の解明」

三田村宗樹：大阪市立大学都市問題研究「都市の地盤環境に関わる基盤的研究—大阪平野表層部の地層形成過程と地盤環境特性—」

吉川周作：日本学術振興会科学研究費補助金（基盤研究（B）(2)）「炭・微粒炭・球状炭化粒子を用いたバイオマス・化石燃料燃焼史解明と周辺環境影響評価」

吉川周作：ニッセイ財団環境問題研究助成「長崎原爆が自然環境に与えた影響の歴史的評価—水域生態系へのインパクトとその再生過程の復元—」

根本泰雄：日本学術振興会科学研究費補助金（基盤研究（B）(1)（一般））「グローバルな視点による小・中・高・大連携地震教育のための新しいカリキュラム作成」

塩野清治：（独）産業技術産業技術総合研究所・（社）全国地質調査業協会連合会・大阪市立大学・（NPO）地質情報整備・活用機構共同研究「Web-GISによる地質・地盤情報の流通および高度利用に関する研究」

### 3-4. 2006年度受賞

井上 淳・高原 光・千々和一豊・吉川周作：日本植生史学会奨励賞「滋賀県曾根沼堆積物の微粒炭分析による約17000年前以降の火事の歴史．植生史研究，13，47-54（2005）」

Inoue J, Takahara H, Yoshikawa S, Inouchi Y：Poster Prize of the HOLIVAR Final Open Science Meeting, London, UK, June 2006.

長橋良隆・吉川周作・宮川ちひろ・内山 高・里口保文：日本第四紀学会論文賞「火山ガラスの主要成分含有量と屈折率との関係．第四紀研究，43，345-352（2004）」

遠藤 誠・能美洋介：日本情報地質学会奨励賞「巨礫のデジタル写真測量」，情報地質，17，94-95（2006）」

## 4. 地球学教室関係行事・出版物等

### 4-1. 2006年度各種行事

#### 「地球学談話会」

2006年度の地球学談話会は開催ませんでした．一方で大学祭の期間を利用しHome Coming Dayを企画し，卒業生や旧教員との意見交換会を開催しました．その内容は以下のとおりです．

日時：平成18年11月3日（金）13:00～16:00

会場：大阪市立大学基礎実験棟 地階 006, 007 室

話題提供（14:00-16:00）

1. 「地球学教室の近況報告」 塩野清治（教室主任）
2. 「海洋調査の楽しさ・つらさ」 益田晴恵（地球物質進化学大講座）
3. 「地質・地盤情報の流通および高度利用に関する産官学の共同研究」 升本眞二（環境地球学大講座）
4. 「農政局の地質屋」 東 一樹（近畿農政局）
5. 「チベット紀行」 宮崎 浩（元石油資源開発株）

2007年度世話人：篠田（物質 I），奥平（物質 II），江崎（地球史），原口（都市地盤，代表），升本（地球情報），三田村（人類紀）

#### 「オープンキャンパス」

8月7・8日にオープンキャンパスが行われました．理学部の会場は8号館と基礎教育実験棟でした．7日に行われた理学部説明会の先輩からの一言では，地球学教室卒業生の伊藤浩子さんが，学生時代の研究生生活や職場で

の業務をスライドを使いながら説明しました。大学での研究体験が社会でどのように活かされるのかを示して好評でした。教室説明会・個別ブース・体験授業の内容と参加者数は次の通りです。（文責：益田晴恵）

[ 7日 ]

教室説明会 41名, 個別ブース 4名

体験授業：空から活断層を探そう（原口） 31名  
：地層を透視して地層のつき方を考える（前島）  
1名

[ 8日 ]

教室説明会 33名, 個別ブース 4名

体験授業：空から活断層を探そう（升本） 9名  
：X線回折による鉱物の同定（篠田） 7名

### 「地球学野外実習・地球学教室交流会」

地球学野外実習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲが9月26日～9月30日に福井県立三方青年の家を利用して西津地域で行なわれました。宿舎のまわり三方五湖周辺に露出するジュラ系丹波テレーン、上部白亜計～古第三系火成岩類を中心に野外調査が行われました。参加者は1回生26名、2回生17名、3回生7名、4回生3名、大学院生10名（うちTA2名）、教員7名でした。大学から宿舎までの往復経路で巡検を企画し、往路では天橋立の海浜地形と赤礁崎と片江鼻の超丹波帯、復路では赤坂石灰岩と野洲川の化石林・足跡化石を見学しました。また三方若狭縄文博物館の見学も行ないました。

野外実習の最後の夜に、宿舎中庭で2006年度地球学教室交流会が行われました。バーベキューパーティでしたが、全員で準備から片付けを分担しました。1回生から大学院生そして教員までが楽しく交流し、有意義な時間を過ごしました。（文責：原口 強）

### 「JABEE 関連報告」

2004年度のJABEE認定審査において、指摘の受けた箇所について、中間審査を受審しました。おもな改善点は以下の3点です。

- ・1年次入学生を対象としたJABEE認定教育プログラム「地球システムコース」と編入学学生を対象とした「地球学専修コース」の2つのコースの存在を編入学学生募集要項、地球学科パンフレット、ホームページ等を通じて学外に開示している。
- ・学習教育目標のC-2（幅広い基礎知識と技術）に関わる専門科目のうち、基礎的科目12科目を必修とし、修了生のすべてが一定レベルの基礎的知識・技術が修得できるように改善するとともに、学習教育目標の説明文に明記し、学生ガイダンス等において招致の徹底を図っている。
- ・デザイン能力は主として特別研究で教育されるようになっていたが、地質調査法Ⅱ・測量及び地質調査法Ⅱ実習や地球学演習Ⅱ等で重点的に教育するように教育内容を改善し、学習教育目標の説明文も改訂した。

以上の改善に関する自己点検書を7月28日付で送付したところ、2007年5月14日付で

審査結果：認定を可とする

認定期間：2006年4月1日～2009年3月31日

という審査結果の報告がありました。最終審査報告書では編入学学生への対応やデザイン教育のプログラムへの組み込み方についての改善が望まれています。次回審査に向けての課題として、検討を進めていきます。

地球システムコースの修了者は合計40名になりました。内訳は次のとおりです。

2004年度 13名

2005年度 16名

2006年度 11名

入学者数が少ないのでさほど目立ちませんが、年を追って増加していきます。その中からどれだけの技術士が生まれるか楽しみです。（文責：塩野清治）

### 「学外活動、高大連携等」

益田晴恵：総合学習（5年生）「世界の国を知ろう」、大阪市立菟田小学校、2006年10月20日。

益田晴恵：青少年のための科学の祭典大阪大会／科学クイズ大会（科学技術振興機構主催）、大阪市立自然史博物館ネイチャーホール、2006年11月19日。

益田晴恵：IODP地質見学会、淡路島-神戸地域、2007年3月3日。

益田晴恵：かたの環境講座「水に流せない水の話」（交野市主催）、阪市大・理・植物園、2007年3月10日。

篠田圭司：市大授業「地球を構成する鉱物」、阪市大・基礎教育実験棟、2006年11月12日。

古山勝彦：市大理科セミナー、阪市大・理・情報処理実習室、2006年8月29日。

奥平敬元：市大理科セミナー、阪市大・理・情報処理実習室、2006年8月29日。

八尾 昭：大阪府教育センター中学校「理科」及び高等学校「地学」研修 野外実習 和歌山県湯浅地域の地質、2006年8月4日。

八尾 昭：大阪教育大学付属高校天王寺校 SPP 講座：地学野外実習 貝塚市蕎原地区、2006年11月11日。

八尾 昭：奈良県理化学会地学部会・やまと地学会 講演会「中国の地質」、奈良育英高校、2006年12月8日。

八尾 昭：大阪教育大学付属高校天王寺校 SPP 講座：講義、2006年12月9日。

八尾 昭：IUGS 57TH EC Meeting Field Excursion 地質案内 岐阜県犬山地域、2007年1月14日。

江崎洋一：大阪市立大学体験入学「地球46億年の旅」大阪府立牧野高等学校・香里丘高等学校、阪市大・基礎教育実験棟、2006年7月14日。

三田村宗樹：大阪市立市岡中学校 出前授業（2年生）「大阪平野のおいたち」、地盤工学会関西支部派遣講師、2006年2月3日。

三田村宗樹：大阪市立大学理数講座、「大阪平野の地下を探る」、大阪市立高等学校、2007年1月30日。

三田村宗樹：総合学習「大地のようす」出前授業、松原市立布忍小学校、2007年2月1日。

三田村宗樹：IODP地質見学会、淡路島-神戸地域、2007年3月3日。

原口 強：「鳴き砂の浜のメカニズム」、都民および鳴き砂ネットワーク会員、東京日本財団会議室、2006年



3月6日.

原口 強：「堆積物から紐解く三方断層の活動」, 福井県民, 福井県若狭三方縄文博物館, 2006年7月8日.

原口 強：「世界から注目される水月湖」, NHK 福井放送局, 2006年7月8日.

原口 強：津波来襲を裏づけ, 新聞：三陸新報, 2006年8月13日

原口 強：地震の仕組みと防災・減災を考える, 2006年9月1日, 大田区大田区大森第8中学校.

原口 強：「碁石浜の津波堆積物」, NHK岩手放送局, 2006年9月16日.

原口 強：「平成18年度大阪市教職員のための夏期大学講座」, 大阪市教育委員会, 8月28日.

原口 強：「防災の日特別講演」, 東京都大田区大森第8中学校, 9月1日.

根本泰雄：大阪市立泉尾東小学校 出張授業(4年)「総合的な学習の時間」, 2006年1月30日.

根本泰雄：「兵庫県 平成18年度教員指導力向上研究支援事業 地域や児童生徒の実態に応じた「総合的な学習の時間」の推進に関する研究「地域の地面から地球を感じ考える総合的な学習の教材開発」小学校3年, 6年 総合的な学習の時間」, 兵庫県赤穂市立尾崎小学校, 2006年11月28・29日.

根本泰雄：文部科学省 SPP 事業「大学教員とコラボレートする地学実習(地学野外実習：地質調査)」, 大阪府貝塚市蕎原, 2006年11月20日.

根本泰雄：「第7回地震火山こどもサマースクール「湘南ひらつかプレートサイド物語」, 神奈川県平塚市, 2006年8月12日・13日.

根本泰雄：「日本地震学会教員サマースクール」, 気象庁松代精密観測室・気象庁長野地方気象台・信州大学教育学部, 2006年8月9日・10日.

根本泰雄：大阪市立泉尾東小学校 出張授業(4年生)「総合的な学習の時間」, 2007年1月13日.

塩野清治：市大授業「コンピュータで地質図を描いてみよう」, 阪市大・基礎教育実験棟. 2006年4月30日.

升本真二：大阪教育大学附属高校天王寺校 SPP 講座, 阪市大・理・情報処理実習室, 2006年12月16日.

#### 4-2. 出版物

「人類紀自然学—地層に記録された人間と環境の歴史—(共立出版)」

人類紀自然学編集委員会(代表：熊井久雄)編著  
A5判・324頁・定価3,990円(税込)[著者割：3,192円(税・送料込)]ISBN978-4-320-04646-7

熊井先生(現本学名誉教授・客員教授)の退職を記念して、「人類紀自然学—地層に記録された人間と環境の歴史—」(人類紀自然学編集委員会編 代表：熊井久雄)が2007年3月に共立出版より刊行されました。人類紀自然学研究室にゆかりのある方々に執筆して頂き、熊井先生の着任から現在までの人類紀自然学研究室における研究成果と、第四紀、特に人類と自然との関係史を明らかにする上での方法論や主要な研究をまとめたものとなっています。

目次(カッコ内は各章の担当執筆者)

第1章 第四紀層序学(熊井久雄・岩本有加・内山高・里口保文)

1.1 年代層序 1.2 「第四紀」主要年代細区分 1.3 日本の第四系層序 1.4 ホモ属の系譜 1.5 古地磁気層序 1.6 火山灰層序

第2章 第四紀の長期環境変遷(吉川周作・木村純一・長橋良隆)

2.1 氷期・間氷期の繰り返しとミランコビッチ・サイクル 2.2 千年周期の気候変動とダンスガード・オシユガーサイクル 2.3 火山活動

第3章 短周期変動(内山高・井上淳・渡辺秀夫・江口誠一)

3.1 地磁気の短周期変動 3.2 過去の植物燃焼を示す堆積物中の微粒炭 3.3 最終間氷期以降の河成段丘堆積物の周期性と気候変化 3.4 植物珪酸体でみる微地形の変化

第4章 人間活動による自然の変化(安原盛明・廣瀬孝太郎・稲野伸哉・趙哲濟・村上晶子・平岡義博・香村一夫・岩本有加)

4.1 完新世の内湾貝形虫と環境変動—特に広義の人為汚染の影響— 4.2 人類紀自然学分野における珪藻研究 4.3 第四紀堆積物中の重金属元素濃度の変化と人為汚染の歴史 4.4 考古遺跡にみる地層形成と土地改変 4.5 球状炭化粒子による化石燃料燃焼史 4.6 人工微粒子分布(都市化と道路粉塵) 4.7 人工地質 4.8 人類自身の生産活動による身体改変

第5章 災害(三田村宗樹・岡橋久世)

5.1 地すべり 5.2 液状化 5.3 地層から巨大地震と津波災害史を読む



(文責：井上 淳)

## 「英文紀要」

地球学教室では 1954 年以來, 英文紀要 Journal of Geosciences, Osaka City University を年 1 巻のペースで編集・発行しています。1991 年 (Vo1, 34) からは国外の研究者も含めたレフェリー制を, 1997 年には A4 版 2 段組を導入しています。表紙やレイアウトなど, 今後より良いものを目指して順次改良を加えていく予定です。皆様のご意見をお待ちしています。Vo1. 50 の目次は以下のとおりです。

*Article 1.* YOSHIKAWA Shusaku, KAWAMURA Yoshinari and TARUNO Hiroyuki: Land bridge formation and proboscidean immigration into the Japanese Islands during the Quaternary, p.1-6.

*Article 2.* SAITO-KOKUBU Y., YASUDA K., MAGARA M., MIYAMOTO Y., SAKURAI S., USUDA S., YAMAZAKI H., MITAMURA M. and YOSHIKAWA S.: Distribution of plutonium isotopes and <sup>137</sup>Cs found in the surface soils of Nagasaki, Japan, p.7-14.

*Article 3.* Mahmoud FARIS, Ibrahim Mohamed GHANDOUR and MAEJIMA Wataru: Calcareous nanofossils biostratigraphy and mineralogical changes across the Cretaceous/Paleogene boundary at Wadi Nukhul, Southwestern Sinai, Egypt, p.15-34.

*Article 4.* KUWAHARA Kiyoko, YAO Akira, YAO Jianxin and WANG Xuncheng: Permian radiolarians from the Gufeng Formation of the Tongling area, Anhui Province, China, p.35-54.

*Article 5.* KUWAHARA Kiyoko, YAO Akira, YAO Jianxin, FENG Shaonan, Ji Zhansheng and YAO Huazhou: Middle Permian radiolarian biostratigraphy on the Gufeng Formation in the Songzi-Wufeng area, Hubei Province, China, p.55-66.

*Article 6.* YAO Akira, KUWAHARA Kiyoko, YAO Jianxin, Ji Zhansheng and Li Jiexiang: Permian radiolarians from the so-called Gufeng Formation of the Laibin - Liuzhou area, Guangxi, China, p.67-81.

*Article 7.* Sivaprakasam VASUDEVAN, Marimuthu ARUMUGAM, Krishnaraj SRINIVASAMOORTHY, Paulsamy ANADHAN and Sabarathinam CHIDAMBARAM: Morphological changes in the beaches caused by tsunami in between Pondicherry and Portonova, East Coast of India, p.83-91.

*Article 8.* TRAN Van Anh, MASUMOTO Shinji, RAGHAVAN Venkatesh and SHIONO Kiyoji: Accuracy of low relief topographical map derived from JERS-1 SAR interferometry in Hanoi, p.93-106.

*Article 9.* Mostafa THABET, NEMOTO Hiroo, and NAKAGAWA Koichi: Reliability of shear wave velocity models inferred from linear site response analyses using log data, p.107-123.

## 地球学教室教職員等連絡先

地球学教室への問い合わせや論文別刷りの請求等は、本年度教室主任（升本眞二）あるいは関係の教員へ連絡して下さい。

### [ 地球物質進化学講座 ]

益田晴恵 Tel: 06 (6605) 2591; Fax: 06 (6605) 2522  
E-mail : harue@sci.osaka-cu.ac.jp  
篠田圭司 Tel: 06 (6605) 3173; Fax: 06 (6605) 3174  
E-mail : shinoda@sci.osaka-cu.ac.jp  
古山勝彦 Tel: 06 (6605) 3179; Fax: 06 (6605) 3183  
E-mail : furuyama@sci.osaka-cu.ac.jp  
奥平敬元 Tel: 06 (6605) 3181; Fax: 06 (6605) 2522  
E-mail : oku@sci.osaka-cu.ac.jp  
八尾 昭 Tel: 06 (6605) 2604; Fax: 06 (6605) 2604  
E-mail : yao@sci.osaka-cu.ac.jp  
前島 渉 Tel: 06 (6605) 2596; Fax: 06 (6605) 2522  
E-mail : maejima@sci.osaka-cu.ac.jp  
江崎洋一 Tel: 06 (6605) 3184; Fax: 06 (6605) 2522  
E-mail : ezaki@sci.osaka-cu.ac.jp

### [ 環境地球学講座 ]

吉川周作 Tel: 06 (6605) 2590; Fax: 06 (6605) 3176  
E-mail : yoshi@sci.osaka-cu.ac.jp  
三田村宗樹 Tel: 06 (6605) 2592; Fax: 06 (6605) 2522  
E-mail : mitamura@sci.osaka-cu.ac.jp  
原口 強 Tel: 06 (6605) 2589; Fax: 06 (6605) 2589  
E-mail : haraguti@sci.osaka-cu.ac.jp  
塩野清治 Tel: 06 (6605) 2594; Fax: 06 (6605) 3071  
E-mail : shiono@sci.osaka-cu.ac.jp  
升本眞二 Tel: 06 (6605) 3178; Fax: 06 (6605) 3071  
E-mail : masumoto@sci.osaka-cu.ac.jp  
理学研究科・理学部 事務室  
Tel: 06 (6605) 2501 (庶務), 2504 (教務);  
Fax: 06 (6605) 2522

地球学教室ニュースレター No. 15, 2007 年 3 月 31 日

編集 地球学教室ニュースレター編集委員会

代表編集委員 奥平敬元

編集委員 篠田圭司・江崎洋一・三田村宗樹・原口 強・  
升本眞二

発行 大阪市立大学大学院理学研究科・理学部

生物地球系専攻地球学教室

〒558-8585 大阪市住吉区杉本 3-3-138